

稲荷山古墳群(Ⅱ)

－宅地造成工事に伴う稲荷山1号墳・2号墳の埋蔵文化財調査報告書－

2008年12月

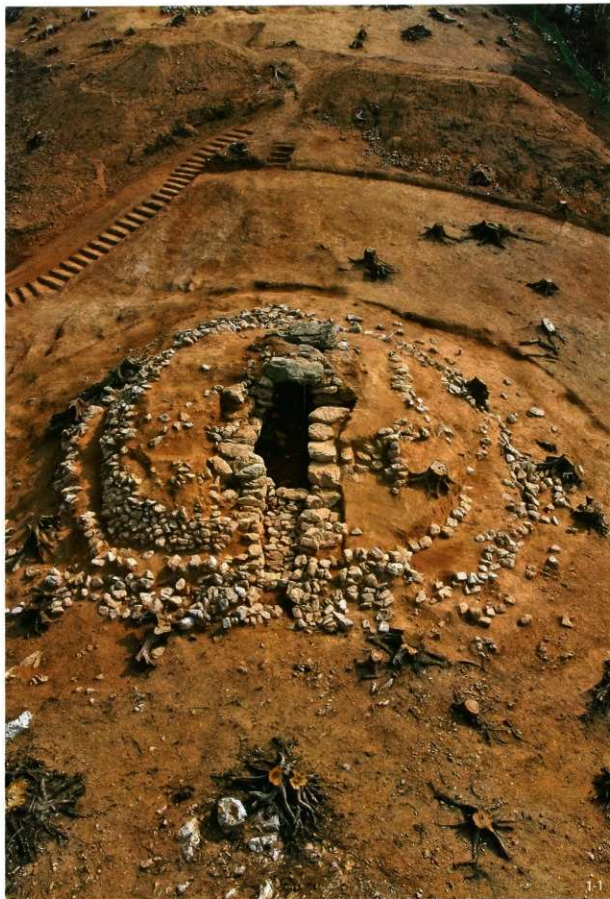
豊橋市教育委員会

いな り やま こ ふん ぐん
稲荷山古墳群 (II)

— 宅地造成工事に伴う稲荷山 1 号墳・2 号墳の埋蔵文化財調査報告書 —

2008 年 12 月

豊橋市教育委員会



1-1. 福開山1号墳 墳丘全景空中写真(西上空より)



2-1. 福崎山 1 号墳 墳丘全景空中写真 (北上空より)



2-2. 福崎山 1 号墳 墳丘全景空中写真 (上空より)



3-1. 稲荷山2号墳 墳丘全景空中写真（西より）

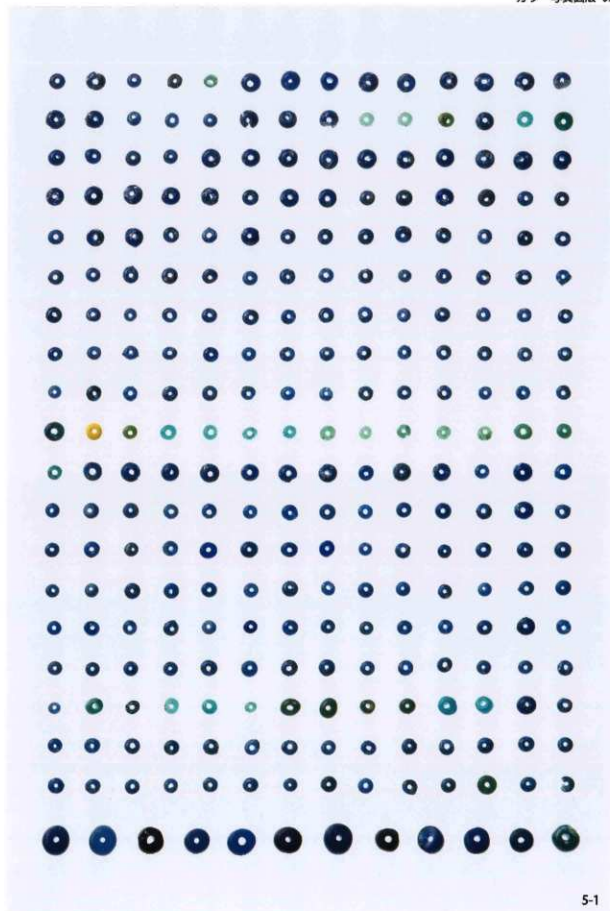


3-2. 稲荷山2号墳 墳丘全景空中写真（西上壁より）



4-1

4-1. 福岡山1号墳 出土玉類1 (勾玉・管玉・切子玉・黒石)



5-1

5-1. 福待山 1 号墳 出土玉類 2 (ガラス小玉・丸玉)



6-1. 稲荷山1号墳 出土土器



6-2. 稲荷山2号墳 出土土器

例 言

1. 本書は、南陽不動産有限公司(代表取締役 山田泰正)が所有する愛知県豊橋市多米町字寺門37-2外において計画された、宅地造成工事に伴う事前調査として実施した、稲荷山古墳群の稲荷山1号墳(県道跡地図番号790424)・稲荷山2号墳(県道跡地図番号790425)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、豊橋市教育委員会教育部美術博物館(以下、「市教育委員会」という。)の指導の下に、国際航業株式会社文化事業部中部調査事務所(平成20年4月1日の分社化に伴い社名変更し国際文化財株式会社となる。以下、「国際文化財」という。)が、南陽不動産有限公司から委託を受けて実施した。
3. 調査担当者は、指導監督を市教育委員会小林久彦が、調査を調査員(兼現場代理人)辻 広志と調査補助員石松 直が、測量を測量技術者櫻井 毅が協力して行った。
4. 現地調査期間は、平成20年1月10日から平成20年3月31日までの、実質66日間実施した。
5. 整理調査期間は、平成20年4月1日から平成20年12月31日まで実施した。
6. 調査面積は敷地面積5,589㎡のうち、稲荷山1号墳調査区が700㎡、稲荷山2号墳調査区が400㎡の合計1,100㎡である。
7. 報告書の執筆並びに編集は、美術博物館小林久彦の指導の下に、辻が行った。
8. 調査参加者及び協力者は、下記のとおりである。記して謝意をあらわすものである。(敬称略・順不同)
鈴木恵介、野々村光雄、植田誠一、上田誠人、内田恭司、渡邊智、中野一徹、秋本雅彦、上西啓安子、伊東里美、小出豊、花井晶子、小川麻理、小竹晴夫、安田明己、三宅昌世、井上佳子、福永享代、原田まり子、平賀静子、林令子、宮下喜美子、原田文雄、福田美智子、中野広志、森下直紀、矢野俊代、伊藤香織、宮阪洋子、鳥居節子、鎌田美津子、大木典子、尾崎容子、寺坂繁、山中まち子、小南藤枝、権田恒雄、兵藤伝寿、服部房雄、山西和子、杉浦恵子、小林寿夫、片桐紀之、田中武男、神藤宏、廣田才治郎、木村昭夫、大山元男、白井忠、伊東英子、田嶋和義、岡田チエ子、三幣智安枝、福田和男、柴田敏孝、稲垣誠、鈴木登久江、斎藤功、市川恵子、関邦弘、鈴木清秀、花井修司、高木邦男、田中博明、伊藤聡史、岩田友一、尾崎勇
また、GIS中部圏、深谷建設、関エイトック、寿福写真、関ヨシカワ、柳レンテック大敬、丸友開発の協力を得た。
9. 現地調査及び整理調査期間中には、下記の方々のご指導ご教授をいただいた。(敬称略・順不同)
寺田哲也、賀 元洋、岩原 剛、村上 界、西松賢一郎
また鉄製品のX線撮影と耳環の蛍光X線分析においては、愛知県埋蔵文化財センター鬼頭剛氏の多大な協力があつた。記してお礼申し上げたい。
なお、予定していた現地説明会(平成20年3月20日)は雨で中止となったが、その翌日から五月前までに50名余りの見学者があつた。
10. 調査にて作成した記録類(図面・写真・測量成果・日誌・デジタルデータ等)及び出土遺物については、三者協定に基づき、所有者の承諾のもと調査者より市教育委員会に移管し、市において保管・管理されている。今後、大方の活用を願いたい。

凡 例

1. 遺跡の略記号は、稲荷山1号墳を「INR-1」に、稲荷山2号墳を「INR-2」とした。
2. 本書に用いた座標は、世界測地系を用いた。
3. 水準は、東京湾の平均海面の値を用いた。なお、特に記さない限りT.P.は省略するものとする。
4. 調査グリッドは、市教委の方式に合わせ、世界測地系の整数値による10m方格とし、任意の南西起点より北へ0～5の数字を、東へA～Iのアルファベット大文字を加えた2桁呼称とした。
5. 石室内の記述を行う場合の右・左は、東側の奥壁から入口を眺めた場合での位置関係を示す。因みに1号墳の玄室では、東側奥壁が「奥壁」、北側側壁が「左側壁」、南側側壁が「左側壁」、右側壁袖部の袖石の作る壁を「袖壁」とする。玄室と羨道の段構造についても、奥壁側から見ての「上り段」「下り段」を示す。羨道・前庭・墓道の区分については、天井部が残存せず段構造や門構造を持たず攪乱により判断ができないため、1号墳については玄室・羨道のみを、2号墳については玄室部・羨道部・前庭を使用した。墳丘斜面に葺かれる墓石については、1号墳の平場の敷石は「葺石状敷石」とし、2号墳の墳丘斜面の敷石は「葺石」を用いた。1号墳における玄室と羨道境の上り段の横石については「榎石」を、2号墳における羨道と前庭境の同一面での横石については「闘石」を用いた。占墳の石室形式については、「右片袖式」については「右片袖（式）」を、「無袖式」「無袖類」については「無袖（式）」を、「疑似両袖式」については「疑似両袖（式）」を仮に用いた。なお、他の墳丘及び石室内を示す用語については、「東三河の横穴式石室 資料編」(1994)「三河考古」第6号の用語に準じたが、これにないものや他の意味を付加したものについては、本文中で用語の定義を行った。
6. 各墳丘の分割区画（墳丘地区名）は、石室主軸を用いて4分割とした。呼称は、石室入口の西側を0時とし、右回りに北西を1区、北東を2区、南東を3区、南西を4区とした。なお、稲荷山2号墳は奥壁の裏側に断崖絶壁となっていたため、北東の2区は存在せず、南東の3区も僅かな面積となっている。
7. 石室内の分割区画（石室内地区名）は、主軸を用いて奥壁より入口までの2m毎の5区画とし、さらにこれを南北に分割した10区画とした。呼称は、奥壁より2m毎に1区～5区とし、これに南側はSを、北側はNを記した。
8. 石室内外の出上遺物については、出来る限り1個体1番号を付して、トータルステーションで地点上げすることを基本として実施した。取上遺物番号のあるものについては、稲荷山1号墳では0001～1123まで、稲荷山2号墳では2001～2277まで、接合による複数の番号があっても最も若い個体の番号を用い、取上遺物番号のない洗浄で出土したものについては、稲荷山1号墳では1500番台から、稲荷山2号墳では2500番台からの番号を付した。取上遺物の一覧は、別表のとおりである。
9. 遺物の注記については、遺跡略記号、グリッド名、区画名、遺構番号、土層名、取上日、取上番号を基本とする。小片については、遺跡略記号と取上遺物番号のみを記しており、出土位置等の詳細は取上遺物一覧表により確認願いたい。
10. 土色及び土器の色調については、『新版標準土色帖』（2000）を用いた。
11. 遺構の縮尺は、調査地全体は1/300を、各古墳調査区全体は1/100を、遺構細部や遺物出土状況等は1/40～1/80を基本とした。
12. 遺物番号は、001～900までの3桁で、稲荷山1号墳の土器（須恵器・土師器・陶器・灰釉陶器・山茶碗・磁器等）が001～100、石製品（勾玉・切子玉・管玉・環玉・白玉等）が101～200、ガラス製品（小玉・丸玉）が201～500、金属製品（大刀・刀子・鏝・耳環・馬具・鉄器等）が501～700で、稲荷山2号墳の土器（須恵器・土師器・陶器・灰釉陶器・山茶碗等）が701～800、金属製品（馬具・鉄器等）が801～900とした。
13. 遺物の縮尺は、土器は1/3を、金属製品1/2を、石製品と耳環は2/3を、ガラス（玉）製品は1/1を基本とした。
14. 観察表の法量単位は、長さについてはcm又はmmを、重さについてはgを基本とした。なお、1g以下の重さについては計測していない。（ ）内の数値は、復元又は推測される数値を示した。

15. 遺物観察表の観察項目は、遺物番号、取上番号、グリット名、墳丘地区名、遺構名、石室地区名、層位、材質、器種、器形、分類、口径、器高、底径/台径、内面成形調整、外面成形調整、底部成形調整、胎土、焼成、色調、備考を基本とした。
16. 遺物の年代、器種や器形の名称や部分名称については、考古学で慣用的に使用されているものを除いて、特に記さない場合は下記のものをを用いた。
 - ・田辺昭三(1981)『須恵器大成』角川書店
 - ・中村 浩(1981)『和泉陶器窯の研究』雄山閣出版
 - ・後藤建一(1989)「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」『静岡県窯業遺跡』静岡県教育委員会
 - ・後藤建一(1995)「東海東部」『古墳出土須恵器集成』第3巻、東日本Ⅰ、雄山閣出版
 - ・川江秀幸(1979)「静岡県下の須恵器について」『須恵器—古代陶質土器—の編年』静岡県考古学会
 - ・川江秀幸(1992)「須恵器の編年」『静岡県史』資料編3、考古3、静岡県
 - ・小林久彦(1994)「東三河地域における古墳出土須恵器の編年」『東三河の横穴式石室』資料編、三河考古刊行会
 - ・斎藤孝正(1995)「東海西部」『古墳出土須恵器集成』第3巻、東日本Ⅰ、雄山閣出版
 - ・斎藤孝正(1989)「灰釉陶器の研究Ⅱ」『名古屋大学文学部研究論集』104、名古屋大学文学部
 - ・斎藤孝正(2000)「灰釉陶器出土の灰釉・緑釉陶器類・皿類の変遷」『日本の美術』第409号、至文堂
 - ・尾野善裕(2000)「灰投窯(系)須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』第1分冊、東海土器研究会
 - ・尾野善裕(2001)「『戊申年木簡』・尾張国分寺と灰投窯—須恵器系須恵器編年の再構築—補論」『須恵器生産の出現から消滅』第5分冊、東海土器研究会
 - ・鈴木敏則(2001)「湖西窯古墳時代須恵器編年の再構築」『須恵器生産の出現から消滅』第5分冊、東海土器研究会
 - ・鈴木敏則(2004)「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会
 - ・中野晴久(1994)「生産地における編年について」『中世常滑窯をめぐって』資料集、日本福祉大学
 - ・中世土器研究会編(1995)『概説 中世の土器・陶磁器』真岡社
 - ・藤澤良祐(1994)「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3輯、三重県埋蔵文化財センター
 - ・藤澤良祐(2002)「中世瀬戸窯の研究」高志書院
 - ・藤澤良祐(2008)「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相』

目 次

例	言
凡	例
目	次

第1章 遺跡の環境

第1節 調査地の位置と地形	1
第2節 調査地の歴史	2

第2章 発掘調査に至る経緯と経過

第1節 調査前史	8
1. 平成13年度以前	8
2. 平成13年度の発掘調査	8
1) 稲荷山2号墳	10
2) 稲荷山3号墳	10
3) 稲荷山4号墳	11
第2節 調査に至る経緯	12
第3節 調査の経過	12
《調査日誌抄録》	

第3章 調査区

第1節 調査区内の地区割設定	23
第2節 調査区の概要	23

第4章 稲荷山1号墳

第1節 地区割の設定	27
第2節 基本層序	28
第3節 遺構	30
1. 墳丘及び周溝	30
1) 墳丘規模	30
2) 墳丘構造	30
(1) 第1重石積	
(2) 第2重石積	
(3) 第3重石積	
(4) 第1重列石	

(5) 第2重列石	
(6) 墓石状石敷	
(7) 周溝	
3) 墳丘・周溝出土の遺物	45
(1) 古墳時代の遺物分布状況	
(2) 平安時代～江戸時代の遺物分布状況	
2. 主体部	52
1) 石室規模	52
(1) 玄室	
(2) 羨道	
2) 石室の配置と築造企画	57
3) 石室の構造と構築法	60
(1) 尾根の削平と平場作り	
(2) 石室・玄室の掘方と排水溝の設置	
(3) 石室基底石の設置	
(4) 石室の構築と裏込め盛り土	
(5) 玄室天井石の架溝	
(6) 敷石床	
(7) 羨道の構築	
(8) 羨道天井石の架構	
4) 石室内の利用と出土遺物	73
(1) 1次床面	
(2) 2次床面	
(3) 3次床面	
(4) 4次床面	
第4節 出土遺物	
1) 1次床面	85
(1) 土器	
(2) 石製品	
(3) ガラス製品	
(4) 金属製品	
2) 2次床面	106
(1) 土器・土製品	
(2) 金属製品	
3) 墳丘・周溝	108
(1) 土器	

(2) 石製品

第5章 稲荷山2号墳

第1節 地区割の設定	116
第2節 基本層序	117
第3節 遺 構	118
1. 墳丘及び周溝	118
1) 墳丘規模	118
2) 墳丘構造	125
(1) 葺 石	
(2) 周 溝	
(3) 西側周溝上石敷遺構SX01・SX02	
3) 墳丘・周溝出土の遺物	126
(1) 古墳時代の遺物分布状況	
(2) 中世の遺物分布状況	
2. 主体部	134
1) 石室規模	136
(1) 玄室部	
(2) 羨道部	
(3) 前 庭	
2) 石室の配置と築造企画	139
3) 石室の構造と構築法	140
(1) 尾根の削平と平場作り	
(2) 石室掘方と排水溝の設置	
(3) 石室の構築	
4) 石室の裏込め盛土と控積み	145
5) 石室内の利用と出土遺物	145
第4節 出土遺物	148
1) 1次床面	148
(1) 土 器	
(2) 金属製品	
2) 石室内・西側周溝上石敷遺構下層SX01	151
(1) 土 器	
3) 墳丘南西側斜面	152
(1) 土 器	

4) 西側周溝上石敷遺構上層 S X 0 2・墳丘北西側斜面	153
(1) 土 器	

第6章 総 括

第1節 稲荷山1号墳と2号墳の帰属時期	154
---------------------	-----

1) 稲荷山1号墳	154
-----------	-----

(1) 1次床面と墳丘南西側斜面等の出土遺物

(2) 1次床面の鉄製轡

(3) 1次床面の鉄鏃

2) 稲荷山2号墳	158
-----------	-----

(1) 1次床面と西側周溝上石敷遺構下層 S X 0 1・墳丘南西側斜面等の出土遺物

(2) 1次床面の鉄製轡

(3) 1次床面の鉄鏃

3) 稲荷山古墳群の築造順序	159
----------------	-----

第2節 古墳構築後の遺物の時期	159
-----------------	-----

1) 稲荷山1号墳	159
-----------	-----

(1) 2次床面の鍛冶の出土遺物

(2) 墳丘北側斜面の祭祀の出土遺物

(3) 墳丘東側・墳丘西側羨道上部の出土遺物

2) 稲荷山2号墳	160
-----------	-----

(1) 西側周溝上石敷遺構上層 S X 0 2・墳丘北西側斜面の出土遺物

(2) 山岳寺院と修験者

第3節 稲荷山1号墳の出土遺物と埋葬位置	160
----------------------	-----

1) 装飾品群と埋葬位置の推定	160
-----------------	-----

第4節 稲荷山1号墳の構築過程	162
-----------------	-----

1) 稲荷山1号墳構築の諸段階	162
-----------------	-----

2) 稲荷山1号墳構築の背景	164
----------------	-----

出土遺物観察表	170
---------	-----

取上遺物一覧表	188
---------	-----

写真図版

抄録・奥書

挿 図 目 次

第 1 図 稲荷山古墳群位置図	1	第 28 図 稲荷山 1 号墳 1 次床面金属製品出土状況図	78
第 2 図 愛知県内地図	2	第 29 図 稲荷山 1 号墳 1 次床面石製品・ガラス製品・耳環 出土状況図	80
第 3 図 豊橋市多米地区道路分布図	4・5	第 30 図 稲荷山 1 号墳 2 次床面掘り込み内 嚴治遺構図	83
第 4 図 『多米郷土誌』(1967)掲載古墳位置図	9	第 31 図 稲荷山 1 号墳遺物実測図	87 - 112
第 5 図 稲荷山 3・4 号墳調査平面図	10	第 32 図 稲荷山 2 号墳墳丘地区割図	116
第 6 図 試掘トレンチ位置図・削平縦横断面図	13	第 33 図 稲荷山 2 号墳石室内地区割図	116
第 7 図 稲荷山 1・2 号墳地区割図	23	第 34 図 稲荷山 2 号墳墳丘断面図	119・120
第 8 図 稲荷山 1・2 号墳調査前現況平面図	25・26	第 35 図 稲荷山 2 号墳墳丘立面平面図	121・122
第 9 図 稲荷山 1 号墳墳丘地区割図	27	第 36 図 稲荷山 1 ～ 4 号墳墳丘平面図	123・124
第 10 図 稲荷山 1 号墳石室内地区割図	27	第 37 図 稲荷山 2 号墳表土層除去後平面図	127・128
第 11 図 稲荷山 1 号墳断面図	31・32	第 38 図 稲荷山 2 号墳西側周溝上石敷遺構下層 SX01 ・上層 SX02 平面図	129
第 12 図 稲荷山 1 号墳立面平面図	33・34	第 39 図 稲荷山 2 号墳出土遺物分布図	131
第 13 図 稲荷山 1 号墳表土層除去後平面図	35	第 40 図 稲荷山 2 号墳墳丘西南西側斜面 水平垂直遺物分布図	132
第 14 図 稲荷山 1 号墳第 1 重石積立面平面図	37	第 41 図 稲荷山 2 号墳古墳時代遺物分布図	133
第 15 図 稲荷山 1 号墳第 2 重石積立面平面図	39	第 42 図 稲荷山 2 号墳中世遺物分布図	135
第 16 図 稲荷山 1 号墳第 3 重石積立面平面図	42	第 43 図 稲荷山 2 号墳石室立面平面図	137・138
第 17 図 稲荷山 1 号墳出土遺物分布図	47	第 44 図 稲荷山 2 号墳石室・墳丘基準尺度割付図	141
第 18 図 稲荷山 1 号墳墳丘西南西側斜面 水平垂直遺物分布図	48	第 45 図 稲荷山 2 号墳 1 次床面・敷石・暗渠排水溝・控溝図	142
第 19 図 稲荷山 1 号墳古墳時代遺物分布図	49・50	第 46 図 稲荷山 2 号墳 1 次床面遺物出土状況図	147
第 20 図 稲荷山 1 号墳平安時代 ～江戸時代遺物分布図	53・54	第 47 図 稲荷山 2 号墳遺物実測図	149・150
第 21 図 稲荷山 1 号墳石室立面平面図	55・56	第 48 図 稲荷山 1 号墳 1 次床面埋葬位置推測図	161
第 22 図 稲荷山 1 号墳石室・墳丘基準尺度割付図	59	第 49 図 稲荷山 1 号墳構築過程変遷図	163
第 23 図 稲荷山 1 号墳石室変遷図	61・62	第 50 図 稲荷山 1・3・4 号墳・日吉神社古墳石室比較図	165
第 24 図 稲荷山 1 号墳基底石・敷石・暗渠排水溝	63		
第 25 図 稲荷山 1 号墳壁体構築工程図	68		
第 26 図 稲荷山 1 号墳 1 次床面遺物出土状況図	74		
第 27 図 稲荷山 1 号墳 1 次床面土器出土状況図	76		

表 目 次

第 1 表 稲荷山 1 号墳基本層序	29	第 3-3 表 稲荷山 1 号墳耳環 3 蛍光 X 線分析スペクトル表	102
第 2 表 稲荷山 1 号墳ガラス小玉・丸玉 小口直径/高さ相關表	93	第 4 表 稲荷山 2 号墳基本層序	118
第 3-1 表 稲荷山 1 号墳耳環 1 蛍光 X 線分析スペクトル表	102	第 5 表 稲荷山 1・2 号墳出土須恵器身坯 器高/口径表	155
第 3-2 表 稲荷山 1 号墳耳環 2 蛍光 X 線分析スペクトル表	102	第 6 表 稲荷山 1 号墳遺物観察表	170 - 185
		第 7 表 稲荷山 2 号墳遺物観察表	186 - 187
		第 8 表 稲荷山 1・2 号墳出土遺物一覽表	188 - 226

写真目次

写真 1 現況崖面	12	写真 13 1次床面検出状況	20
写真 2 岩盤露頭 1	12	写真 14 第2重石積 1 m角	20
写真 3 岩盤露頭 2	12	写真 15 1次床面馬具 2出土状況	20
写真 4 安全祈願	14	写真 16 1次床面調査完了	21
写真 5 4区墳丘遺物取上状況	15	写真 17 洗浄用土砂置場	21
写真 6 3区周溝確認	15	写真 18 石室内土砂の洗浄作業	21
写真 7 2月度安全大会	15	写真 19 遺物注記作業	21
写真 8 第5回打合せ会議	16	写真 20 石室解体右側壁	22
写真 9 2号墳床面出土土器	19	写真 21 石室解体奥壁	22
写真 10 2号墳床面敷石清掃	19	写真 22 基底石測量	22
写真 11 空撮用への準備	20	写真 23 市教育委員会の終了確認	22
写真 12 2次床面遺物出土状況	20		

カラー写真図版目次

第1-1図 稲荷山1号墳 墳丘全景空中写真	第4-1図 稲荷山1号墳 出土玉類 1
第2-2図 稲荷山1号墳 墳丘全景空中写真	第5-1図 稲荷山1号墳 出土玉類 2
第2-2図 稲荷山1号墳 墳丘全景空中写真	第6-1図 稲荷山1号墳 出土土器
第3-1図 稲荷山2号墳 墳丘全景空中写真	第6-2図 稲荷山2号墳 出土土器
第3-2図 稲荷山2号墳 墳丘全景空中写真	

写真図版目次

第1-1図 調査前調査地より朝倉川と多米中町周辺を望む	第7-1図 表土層掘削状況全景
第2-2図 調査前調査地と山裾の多米街道	第7-2図 1・4区石室入口表土層掘削状況
第2-2図 調査前調査区全景	第7-3図 2・3区表土層掘削状況
第3-1図 調査区西側部分景	第7-4図 3・4区表土層掘削状況
第3-2図 調査区東側部分景	第7-4図 3・4区表土層掘削状況
《稲荷山1号墳》	第7-5図 4区周溝埋没状況
第4-1図 調査区墳丘西側	第8-1図 表土層除去後の全景
第4-2図 調査区墳丘東側	第8-2図 1・2区表土層除去状況
第5-1図 調査前墳丘全景	第8-3図 1・4区石室西入口部の状況
第5-2図 墳丘カーブと南側周溝痕跡	第8-4図 3区周溝内転石及び墳丘斜面の状況
第6-1図 石室開口部	第8-5図 1・2区墳丘斜面の状況
第6-2図 同上	第9-1図 墳丘堆積土層・周溝内堆積土層除去後の調査地遠景
第6-3図 同上	第9-2図 同上 調査地全景
第6-4図 天井石上部	第10-1図 墳丘堆積土層・周溝内堆積土層除去後の調査地全景
第6-5図 石室開口部	第10-2図 同上 調査地から多米街道と多米峠を望む
第6-6図 同上	第11-1図 墳丘堆積土層・周溝内堆積土層除去後の調査区全景
第6-7図 石室背後の墳丘内石積露出状況	第12-1図 墳丘全景
第6-8図 石室内の瓦出土状況	第12-2図 同上

- 第13-1 図 墳丘全景
- 第13-2 図 同上
- 第14-1 図 墳丘全景
- 第15-1 図 1・4区墳丘西側・石室入口の列石と第2・3重石積
- 第15-2 図 同上 石室入口北側
- 第15-3 図 同上 石室入口南側
- 第15-4 図 同上 石室入口
- 第15-5 図 1・4区石室前庭
- 第16-1 図 1区墳丘北西側の列石と第2・3重石積
- 第16-2 図 同上 第2・3重石積
- 第16-3 図 同上
- 第16-4 図 1区列石と葺石状石敷
- 第16-5 図 1区列石と葺石状石敷部分
- 第17-1 図 墳丘北東側の第2・3重石積
- 第17-2 図 同上 石室背後
- 第17-3 図 同上
- 第17-4 図 同上 第2・3重石積斜面見通
- 第17-5 図 同上 第2・3重石積側面
- 第18-1 図 2・3区墳丘東側・石室背後の列石、
葺石状石敷と第2・3重石積
- 第18-2 図 列石・葺石状石敷・石積
- 第18-3 図 同上
- 第18-4 図 石敷近景
- 第18-5 図 同上
- 第19-1 図 3区墳丘南東側の列石と第2・3重石積
- 第19-2 図 同上
- 第19-3 図 同上
- 第19-4 図 同上
- 第19-5 図 同上
- 第20-1 図 4区墳丘南西側の列石と第2・3重石積
- 第20-2 図 同上
- 第20-3 図 同上
- 第20-4 図 同上
- 第20-5 図 同上
- 第21-1 図 1・4区墳丘西側・石室入口と第2重石積
- 第21-2 図 2・3区墳丘東側・石室背後と第2重石積
- 第22-1 図 1区墳丘北西側の第2重石積
- 第22-2 図 同上
- 第22-3 図 同上
- 第22-4 図 同上
- 第22-5 図 1区墳丘北西側の第2重石積
- 第23-1 図 2区墳丘北東側の第2重石積
- 第23-2 図 同上
- 第23-3 図 同上
- 第23-4 図 段差部分
- 第23-5 図 同上
- 第24-1 図 2・3区墳丘東側・石室背後の第2重石積
- 第24-2 図 同上
- 第24-3 図 同上
- 第24-4 図 同上
- 第24-5 図 同上
- 第25-1 図 3・4区墳丘南側と第2重石積
- 第25-2 図 同上
- 第25-3 図 同上
- 第25-4 図 同上
- 第25-5 図 同上
- 第26-1 図 1・4区墳丘西側・石室入口と第1重石積
- 第26-2 図 2・3区墳丘東側第1重石積と周溝
- 第27-1 図 1・2区墳丘北側と第1重石積
- 第27-2 図 1区 同上
- 第27-3 図 2区 同上
- 第27-4 図 2区 同上
- 第27-5 図 同上
- 第28-1 図 2・3区墳丘東側・石室背後の第1重石積
- 第28-2 図 同上
- 第28-3 図 同上
- 第28-4 図 同上
- 第28-5 図 同上
- 第29-1 図 3・4区墳丘南側と第1重石積
- 第29-2 図 4区異なる石積状況
- 第29-3 図 同上
- 第29-4 図 同上
- 第29-5 図 3区同一の石積状況
- 第30-1 図 羨道2次閉塞石残存状況
- 第31-1 図 羨道2次閉塞石残存状況
- 第31-2 図 同上部分1
- 第31-3 図 同上部分2
- 第31-4 図 同上部分3
- 第31-5 図 羨道部2次閉塞石残存状況
- 第32-1 図 羨道1次閉塞石残存状況

- 第 33-1 図 羨道 1 次窠石残存状況
- 第 33-2 図 同上
- 第 33-3 図 柩石上閉塞石
- 第 33-4 図 柩石上閉塞石
- 第 33-5 図 同上
- 第 34-1 図 羨道玄門と右側壁
- 第 34-2 図 羨道の柩石と敷石部分
- 第 34-3 図 羨道の敷石
- 第 34-4 図 羨道東側の敷石
- 第 34-5 図 羨道西側の敷石
- 第 35-1 図 玄室 4 次床面全景
- 第 35-2 図 玄室 4 次床面 1N・1S 区
- 第 35-3 図 玄室 4 次床面 3N・3S 区
- 第 35-4 図 玄室 4 次床面 2N・2S・3N・3S 区
- 第 35-5 図 同上
- 第 36-1 図 玄室 3 次床面全景
- 第 36-2 図 玄室 3 次床面 1S 区の平行
- 第 36-3 図 玄室 3 次床面 2N・2S・3N・3S 区
- 第 36-4 図 玄室 3 次床面 1N・1S 区
- 第 37-1 図 玄室 2 次床面埋土の遺物出土状況
- 第 37-2 図 玄室 2 次床面埋土出土の灰釉陶器
- 第 37-3 図 玄室 2 次床面掘り込み出土の火打金
- 第 37-4 図 玄室 2 次床面出土の鍛冶跡と髹羽口
- 第 37-5 図 同上
- 第 38-1 図 玄室 1 次床面の羨道からの全景
- 第 38-2 図 玄室 1 次床面の玄門からの全景
- 第 39-1 図 玄室奥壁側 1 次床面
- 第 39-2 図 玄室玄門側 1 次床面
- 第 40-1 図 玄室 1 次床面全景
- 第 41-1 図 玄室 1 次床面右側壁玄門近くの A 群土器出土状況
- 第 41-2 図 玄室 1 次床面左側壁玄門近くの B・C 群土器出土状況
- 第 42-1 図 C 群鉄鍬出土状況
- 第 42-2 図 A 群鉄鍬出土状況
- 第 42-3 図 大刀出土状況
- 第 42-4 図 簪 2 出土状況
- 第 42-5 図 B 群玉類出土状況
- 第 42-6 図 A 群玉類出土状況
- 第 42-7 図 D 群玉類出土状況
- 第 42-8 図 E 群玉類出土状況
- 第 43-1 図 玄室の奥壁全景
- 第 43-2 図 同上 奥壁上部北側
- 第 43-3 図 同上 奥壁上部南側
- 第 43-4 図 同上 奥壁下部北側
- 第 43-5 図 同上 奥壁下部南側
- 第 44-1 図 玄室右側壁
- 第 44-2 図 同上
- 第 45-1 図 玄室左側壁
- 第 45-2 図 玄室奥壁と左側壁の接合状況
- 第 45-3 図 同上
- 第 45-4 図 同上 基礎石
- 第 46-1 図 玄室の玄門と柩石
- 第 46-2 図 同上
- 第 46-3 図 同上
- 第 46-4 図 柩石
- 第 46-5 図 玄門と右側壁
- 第 47-1 図 天井石 3
- 第 47-2 図 天井石 2
- 第 47-3 図 天井石 1
- 第 47-4 図 天井石
- 第 47-5 図 墳丘横断面
- 第 48-1 図 羨道下の暗渠排水溝
- 第 48-2 図 同上
- 第 48-3 図 同上
- 第 48-4 図 石材撤去後の暗渠排水溝
- 第 48-5 図 同上
- 第 49-1 図 玄室の基礎石と敷石床
- 第 49-2 図 同上
- 第 50-1 図 玄室基礎石東側部分
- 第 50-2 図 玄室基礎石西側部分
- 第 50-3 図 玄門基礎石・排水溝
- 第 50-4 図 玄室左側壁すき間内出土 F 群鉄鍬出土状況
- 第 50-5 図 玄室奥壁
- 第 50-6 図 奥壁北側の石材使用状況
- 第 50-7 図 奥壁裏込
- 第 50-8 図 奥壁と右側壁の積上状況
- 第 51-1 図 玄室の敷石床撤去後
- 第 51-2 図 同上
- 第 51-3 図 同上
- 第 51-4 図 奥壁基礎石石室内の間詰め石
- 第 51-5 図 奥壁基礎石の裏込石材

第 52-1 図 石室掘方
 第 52-2 図 石室掘方より西を望む
 第 53-1 図 石室内出土土器 1
 第 54-1 図 石室内出土土器 2
 第 55-1 図 石室内出土土器 3、石室外出土土器 1
 第 56-1 図 石室内出土玉製品 1
 第 56-2 図 石室内出土玉製品 2、石室外出土玉製品 1
 第 57-1 図 石室内出土玉製品 3
 第 58-1 図 石室内出土鉄製品 1
 第 59-1 図 石室内出土金属製品 2、金属製品 X 線写真 1
 第 59-2 図 鉄製品 X 線写真 2
 第 60-1 図 鉄製品 X 線写真 3
 第 61-1 図 鉄製品 X 線写真 4
 第 62-1 図 石室内出土鉄製品 3
 第 62-2 図 鉄製品 X 線写真 5
 第 63-1 図 石室内出土鉄製品 4
 第 63-2 図 鉄製品 X 線写真 6
 《稲荷山 2 号墳》
 第 64-1 図 調査前全景
 第 64-2 図 調査前の 1 号墳からの遠景
 第 64-3 図 調査前の主体部上陥没
 第 64-3 図 墳丘背後の状況
 第 64-4 図 同上
 第 65-1 図 表土層除去後の全景
 第 65-2 図 1・2 区表土層除去後の墳丘北側状況
 第 65-3 図 3・4 区表土層除去後の墳丘南側状況
 第 65-4 図 1 区 SX02
 第 65-5 図 同上
 第 66-1 図 石室上部表土層・埋土層の掘削状況
 第 66-2 図 同上
 第 66-3 図 同上
 第 66-4 図 石室内壁柱
 第 66-5 図 墳丘西側の SX02
 第 66-6 図 同上
 第 66-7 図 同上
 第 66-8 図 同上 須恵器短頸甕出土状況
 第 67-1 図 墳丘堆積層・周溝内堆積層除去後の墳丘全景

第 67-2 図 墳丘堆積層・周溝内堆積層除去後の墳丘全景
 第 68-1 図 墳丘全景
 第 68-2 図 同上
 第 69-1 図 墳丘全景
 第 69-2 図 同上
 第 69-3 図 墳丘南側
 第 69-4 図 1 区周溝
 第 69-5 図 4 区周溝
 第 70-1 図 玄室部・羨道部全景
 第 70-2 図 同上
 第 71-1 図 玄室部・羨道部全景
 第 71-2 図 玄室部・羨道部・前庭正面
 第 71-3 図 奥壁
 第 71-4 図 右側壁
 第 71-5 図 左側壁
 第 72-1 図 闕石残存状況
 第 72-2 図 闕石と前庭の敷石
 第 73-1 図 1 次床面敷石床残存状況
 第 73-2 図 同上 敷石床残存状況
 第 73-3 図 同上 敷石床上面
 第 73-4 図 敷石床・左側壁・奥壁
 第 73-5 図 敷石床・右側壁・奥壁
 第 74-1 図 2S 区 1 次床面出土土器
 第 74-2 図 同上
 第 74-3 図 1N 区 1 次床面出土鉄鏃
 第 74-4 図 4N 区閉塞石下出土馬具
 第 74-5 図 側壁抜き取り痕
 第 75-1 図 暗渠排水溝
 第 75-2 図 玄室部基底石と敷石床
 第 76-1 図 玄室部の敷石床除去状況
 第 76-2 図 同上
 第 77-1 図 暗渠排水溝掘方全景
 第 78-1 図 石室掘方
 第 78-2 図 石室掘方
 第 79-1 図 石室内出土土器、石室外出土土器
 第 80-1 図 石室外出土土器
 第 80-2 図 石室内出土鉄製品、鉄製品 X 線写真

第1章 遺跡の環境

第1節 調査地の位置と地形

稲荷山古墳群は、東を静岡県境、南を太平洋、西を三河湾に面する第1図の愛知県豊橋市多米町字寺門から字北脇の、赤岩山地の南側斜面に派生する標高72mの通称「稲荷山」と呼ばれる小さな尾根筋に所在する、現状で5基からなる古墳群である。

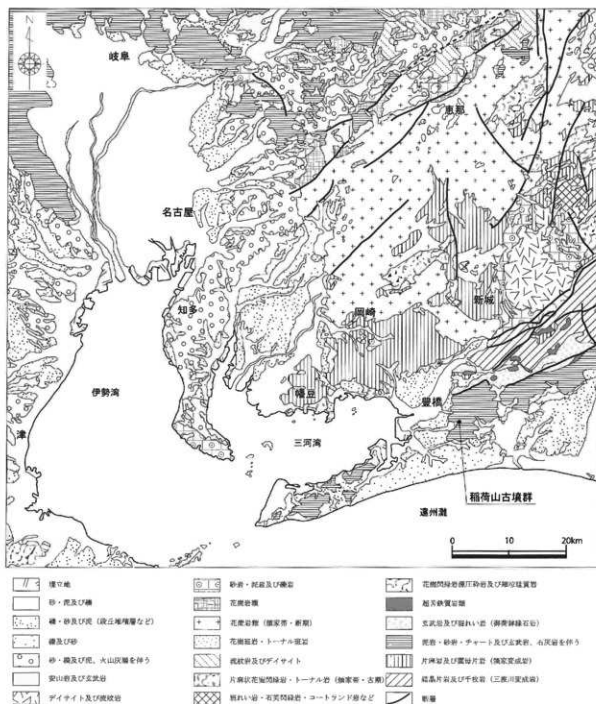
稲荷山のある多米(以下、「多米地区」という。)は、南西方向に延びる八名・弓張山地が愛知県と静岡県との県境で、稲荷山の東2.3kmの多米峠を境にその東は静岡県湖西市知波田となり、浜名湖湖畔までは5.7kmの距離にある。多米峠の北は、北西に延びる八名・弓張山地から北北東3kmの神体山である石巻山(356m)に、南東には神石山(324m)、さらに西の船形山に至る。多米峠北側から西に延びる赤岩山地の尾根は、神石山の北西麓を南山というのに対して北山と称され、東より砥山、茶白山、稲荷山の北東頂きを小屋山、稲荷山の西側で赤岩寺東側を赤岩山・花塚山、赤岩寺西側尾根を丸山、西端の蟬川の尾根をキジ山と称している。また、稲荷山から西北西の豊川の三河湾河口まで11.3km、南の旧東海道二川宿本陣まで4.3km、さらに南の遠州藩までは10.3km、北西の豊川に最も近い牛川の渡しまで4.1km、北西の三河国分寺跡まで13.1km、さらに北北西の三河国府跡まで14.5kmの位置に所在する。

多米地区を流れる河川には2河川がある。一つは多米峠北側の滝ノ野峠を源とする滝川で、平地の中央では蟬川と称し、朝倉川と名前を変えて豊川に注ぐ。もう一つは、神石山から多米町周辺に至り滝川に合流する境川である。境川は、近世まで渥美郡と八名郡の郡界となっていた河川である。

多米地区周辺の地質は、第2図に示す中・古生代秩父古成層のチャートの岩盤層で、北部の中山峠から多米峠をへて二川地区までの大部分はこのチャートからなっている。岩質は非常に硬く、小褶曲していて縞状層理が発達し、石英脈が網目状に広がるものなどが知られている。稲荷山古墳群並びにこの周辺の横穴式石室に使用されている石の多くが、このチャートを用いている。多米地区の赤岩山や丸山ではこのチャートが赤褐色を呈していて、地名の謂われとなっている。周辺では風化が進んで真砂化している部分が随所にみられる。このため宅地化の進んだ斜面地では、壁面の崩落や赤水が度々発生している。



第1図 稲荷山古墳群位置図



第2図 愛知県内地質図 (地質調査所「京都」を一部改変)

第2節 調査地の歴史

ここでは、第3図の多米地区周辺の遺跡で、古墳時代を中心に記述する。

縄文時代

多米地区では明確な遺跡は検出されていない。赤岩山地北側の牛川地区では、眼鏡下池北遺跡において、縄文時代早期の竪穴住居や炉跡、集石炉跡が検出され、押型文土器や石器が出土している。また、忠興遺跡(30)でも遺物が採集されている。

弥生時代

この時代の遺跡も余り知られていないが、赤岩山地西端のキジ山と朝倉川が作る三角地帯の南西斜面に、弥生時代後期の坪尻遺跡(31)がある。遺物は市立多米小学校に保管されているものがある。

古墳時代

この時期の明確な遺跡は、多米地区西端で朝倉川左岸の居村遺跡(25)がある。出土遺物は、稲荷山古墳群(1)の時期よりもやや古い様相を示す。後期古墳群に該当する6～7世紀の集落遺跡は、いまだ発見されていないといえる。

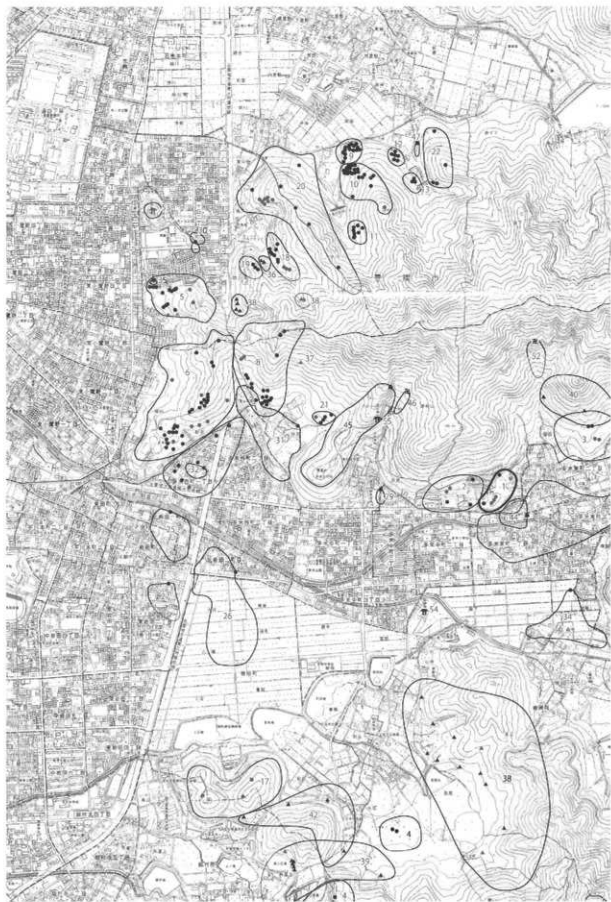
豊橋市は、愛知県内の中にあっても後期古墳の数が多いことで知られている。一番多いのは市域北部の石巻地区であるが、市域東部の牛川地区・多米地区・二川地区においても多くの後期古墳が知られている。この内、石巻地区・牛川地区・多米地区は旧八名郡に属している。

多米地区は赤岩山地(北山)の南麓を中心とするもので、西端からキジ山山上のキジ山古墳群(6)に35基、キジ山麓下の平地にみられる野中古墳群(7)に8基、キジ山東側の坪尻古墳群(8)に20基、丸山の赤岩城西麓緩斜面にある赤岩山古墳群(21)に6基、稲荷山西側の花塚山南麓の寺門古墳群(2)に5基、今回調査を行った稲荷山の稲荷山古墳群(1)に5基、北脇庵寺(52)のある茶白山山麓の白山古墳群(3)に4基、最も東端の多米峠西側尾根上にある埋塚古墳群(14)に3基が知られている。多米地区の南側奥部にあたる船形山北山麓には、稲荷山1号墳に石室構造が近いと思われる直径14m余りの円墳である日吉神社古墳(23)が1基(他に1基在りか)存在する。また、谷を挟んだ北側には、詳細は不明であるが、滝ノ谷古墳(24)が単独で存在する。南山では滝ノ谷古墳の北西に南山古墳群(16)に3基、八幡山下の八幡山古墳群(15)に2基などが知られている。なお、赤岩城址(47)の存在する丸山の尾根や、その反対側の赤岩寺北庵寺(46)周辺には今のところ古墳の存在が確認されていない。これらの空白地については、城や寺の造成で壊された可能性が残る。この様に現況で確認されるものだけでも北山で86基、南山周辺で7基となる。これらの古墳で調査されたのは、平成13年度に5基の内の3号墳と4号墳が調査された稲荷山古墳群(1)のみで、詳細は次章で後述する。

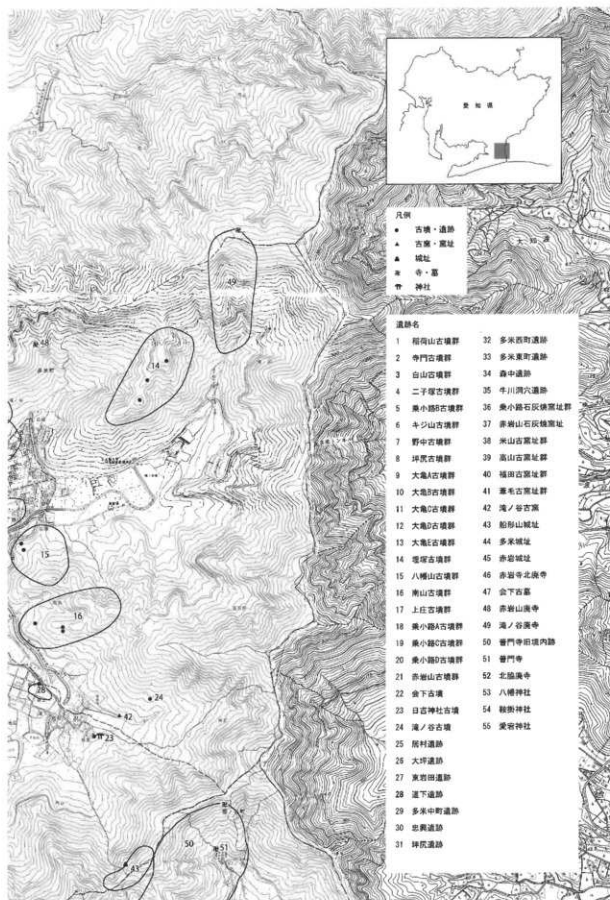
多米地区の南側にあたる二川地区においても多数の古墳群が知られている。船形山北側斜面の古窯跡群地帯には、上庄古墳群(17)に3基、高山古墳群と二子塚古墳群(4)に5基などの8基がある。旧東海道に面する南側斜面には、西より火打坂古墳群に23基、北山古墳群に5基、チャンチャカ山古墳群に5基、上ノ山古墳群に17基、西荒神古墳群に7基、四ツ塚古墳群に10基など67基が知られている。これらの古墳で調査されたのは、昭和40年に行われた北山古墳群の1・4・5号墳の3基である。この内4・5号墳の主体部は、無袖(式)横穴式石室であった。

牛川地区東部では、キジ山の北側の尾根から東に乗小路B古墳群(5)に14基、乗小路C古墳群(19)に3基、乗小路A古墳群(18)に11基、乗小路D古墳群(20)に13基、大亀A古墳群(9)に16基、大亀B古墳群(10)に23基、大亀C古墳群(11)に8基、大亀D古墳群(12)に4基など97基が知られており、大古墳群を形成している。

これらの古墳群の性格については、その立地の違いが、被葬者の階層や性格に反映しているものとみられている。



第3図 豊橋市多米地区道跡分布図 (1/20000)



第3図 豊田市多米地区遺跡分布図 (1/20000)

古代・中世

多米地区は、承平年中(931～938)に源順が編纂した『倭名類聚鈔』によると、版本には「三河国八名郡多木郷」とし、高山寺本には「三河国八名郡多米郷」とするものに該当する。市立多米小学校にこの時期の遺物があるので、学区内に遺跡の存在が予想されるが、その所在は明らかでない。条里遺構についても、朝倉川(蟬川)の北側に区画整理前まで、N-26°-Eの方向の条里痕跡が確認でき、石巻地区での方位と同じものである。これらの条里方位は等高線の傾斜とは必ずしも一致しておらず、極めて画一的な条里施行が八名郡の豊川下流域において広範囲に行われた可能性が高いものといえる。

延喜5年(905)に編纂を開始し延長5年(927)に完成した『延喜式』神名帳に記載された式内社は、多米地区にはないが、八名郡の石巻神社(小社)が知られている。多米地区には、春日神社があり鹿島、祇園、波利、大社、稲荷、雷公の祭神を祀る。境内社としては、地区内より八幡社、白山社、稲荷社、御嶽社、稲葉社、山の神が近代に合祀された。

寺院では、赤岩山に神亀3年(726)に行基開基と伝える真言宗赤岩寺が所在する。赤岩寺は、三河七御堂(普門寺、財賀寺、鳳来寺、全福寺、長泉寺、金蓮寺)の一つである。赤岩寺の谷奥にある赤岩寺北庵寺(46)、小屋山の北脇庵寺(52)、滝ノ谷の滝ノ谷庵寺(49)、船形山の普門寺旧境内(50)なども、平安時代～中世の山岳寺院跡である。

城館跡は、多米地区では2ヶ所が知られている。赤岩城址(45)は、赤岩寺北側の標高129mの尾根上に作られた、80×60mの曲輪・堀切・土塁からなる山城で、天文年間(1154～1156)に牧野新次郎が城主であったと伝える。多米城址(元益城址)(44)は、多米東町2の多米街道南側字清水にある約50m四方の土塁で囲まれた畑地で、多米玄蕃元元益が城主であったと伝える館跡である。付近には城屋敷、殿川の地名が残る。また、普門寺北西の尾根上にある船形山城址(43)は、標高280mの尾根上より遠江と三河の境目の街道を押さえる180×60mの曲輪・堀切・土塁からなる山城で、今川氏による対戸田氏、徳川氏による対今川氏のような軍事的拠点であった。『宗長手記』によると、明応(1492～1501)の頃に今川方の多米又三郎が城主となったが戸田宗光により落城し、その後永禄7～11年(1564～68)頃には徳川家康の命で小笠原氏が守備していたと伝える。

近世・近代

多米地区は、吉田藩領になり、明治5年廃藩置県で額田県、明治6年愛知県所轄となった。明治21年に編纂された『多米村誌』によれば、明治9年の戸数は143戸、人数648人、馬60頭、荷車15輛であった。明治12年の物産は、米743石1斗8升、麦181石5斗1升、粟17石1升、黍11石2升5合、稗29石3斗8升、大豆44石5斗7升、小豆20石6斗8升、蕎麦15石6斗5升、蜀黍8斗5升、甘藷5890貫、実綿190貫200目、葉煙草11貫180目、菜種2石4斗5升であった。民業は、「全村男女トモ専ラ農耕ヲ勉ム、其暇ヲ以テ男ハ薪木ヲ伐リ、女ハ機織ヲナス」と記している。

(参考文献)

- ・歌川学 (1944) 「三河国の条里制」『三河遠江の史的研究』151～161頁
- ・豊橋市教育委員会 (1968) 『豊橋市大岩町北山古墳群・豊橋市植田町大膳古窯址群』
- ・豊橋市史編纂委員会 (1979) 「多米村誌」『豊橋市史』第8巻、178～184頁、豊橋市
- ・愛知大学史学科考古学研究会 (1990) 「豊橋市日吉神社古墳石室実測調査報告」『三河考古』第3集、三河考古刊行会
- ・三河考古学談話会 (1994) 「東三河の横穴式石室 資料編」三河考古刊行会
- ・高田徹 (1997) 「石巻山城」「赤岩城」「多米城」「二連木城」「船形山城」『愛知県中世城跡調査報告Ⅲ』242・243・248・249頁、愛知県教育委員会
- ・豊橋市 (1999) 「地質」『豊橋市自然環境保全基礎調査報告書』21～41頁
- ・岩原剛 (2002) 「稲荷山古墳群の概要」『稲荷山古墳群』第65集、8～10頁、豊橋市教育委員会
- ・豊橋市教育委員会 (2004) 『豊橋市遺跡分布図』

第2章 発掘調査に至る経緯と経過

第1節 調査前史

1. 平成13年度以前

稲荷山の「古塚」が、昔の墓として認識されていたのは、かなり古い時代からではないかと思われる。この石の塚は、地元多米町の住民、特に子ども達にとっては、大昔から格好の遊び場となっていた。このため、成長した多くの町民がその存在を認識しており、古墳から掘り出された考古資料も各所で保管されていたようで、一部は多米小学校にも保管されている。しかし、古記録に記載されたものは殆どなく、現代に入ってからの下記の郷土史が唯一のものとみられる。

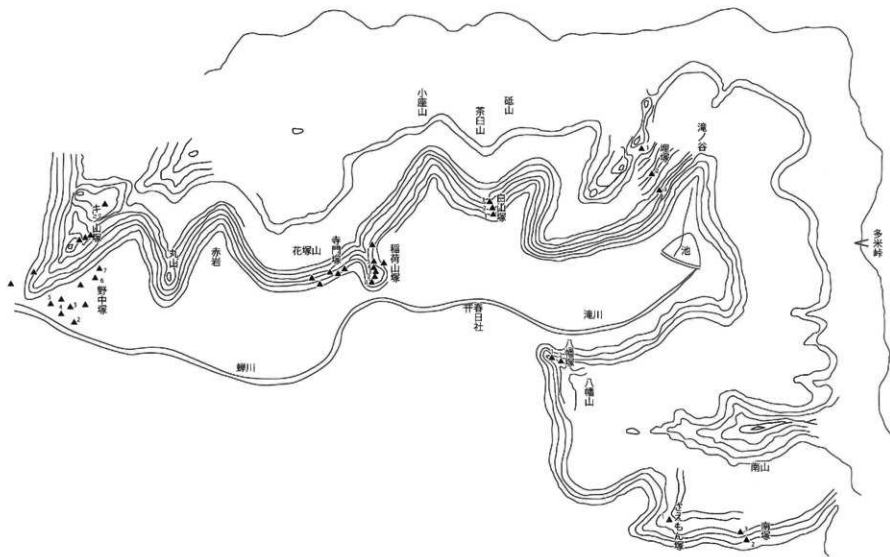
地元の郷土史を纏めた昭和42年刊行の『多米郷土誌』には、多米町内の古墳の位置を示した第4図に「稲荷山古墳」として5基の古墳の存在と、それぞれの規模を記載している。最も南で低い位置にある1号墳は「外域 直径十一米 高さ二米 石室 奥行二・七米 巾一・五米 高さ一・四米」、2号墳は「外域 直径十一米 高さ五十糎 石室 中央に穴があいているだけ」、3号墳は「すべてがはっきりしないが古墳であると思われる程度である」、4号墳は「外域 直径十一米 高さ二・二米 石室 奥行三・五米 巾一・五米 高さ一・二米」とある。これらの記述内容の内、現状の1号墳・3号墳・4号墳が明確な墳丘を確認できたにも拘わらず、3号墳が古墳と思われる程度と記しているなど、現状の1～4号墳の残存状況と異なる記載が見受けられる。さらに、昭和15年の開鑿時に見つかった5号墳は、開鑿者の話として「八十kg～一〇〇kgくらいの石が三角形に合され、その中の部分の三角形の空間に土器が入っていて、それがいくつも合されていた。四つは掘った。」とし、付近からは焚火をしたと思われる炭が沢山掘り出されたと記している。記述内容からは、5号墳を古墳とは断じたい。むしろ、古墓とみるべきかもしれない。それとも、北側に存在して現状では確認できていない古墳の事を記しているのか、4号墳の事なのかは明らかでない。

また、「稲荷山古墳よりの出土品」として巻頭写真1枚が掲載され、古墳時代後期の須恵器の坏身5点、坏蓋3点、直口壺2点、甕1点、提瓶1点など12点が写されている。現在所在不明となっているこれらの遺物も、何号墳から出土したものかは不明である。

何れにしても、過去に幾人もの人達によって繰り返し掘り返され、利用されてきた古墳であったため、その損壊状況は激しいといえる。

2. 平成13年度の発掘調査

市教育委員会は、豊橋市多米町北脇2-1外の個人住宅の開発に伴い、3号墳と4号墳の調査のため、平成13年8月1日～10月31日にかけて、約1,000㎡の発掘を行った。この結果、第5図のように、東西に並ぶ2基の古墳と2号墳の東側周溝、平場遺構(神社跡)等を検出し、下記のような規模であることが明らかとなった。



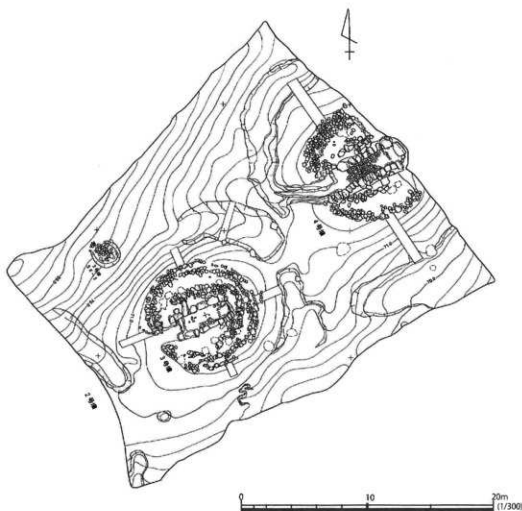
第4図 『多米郷土誌』(1967)掲載古墳位置図

1) 稲荷山2号墳

2号墳の東側周溝は、幅 1.1～2.2 m、最深 0.2 m であった。周溝内の底からやや浮いた状態で出土遺物があり、須恵器の坏身・坏蓋・直口壺が出土した。構築時期は 6 世紀後葉以前と考えられる。

2) 稲荷山3号墳

3号墳は、直径約 11.0 m、残存高約 2.0 m の円墳で、最大幅約 3.3 m の一部途切れた周溝を巡らす。主体部は、主軸を $S-69^{\circ}30'-E$ とする、西側に開口する無袖(式)の横穴式石室で、玄門部は上り段構造である。一段落ちた床面の敷石は一部が残る程度で、側壁は最大 5 段までで左側壁の前底部や天井石も無くなっており、激しい攪乱を受けていた。墳丘には直径約 8.5 m の外部石列と、直径約 7.5 m の墳丘内石列、さらに直径約 5.6～6.0 m の楕円形の控積みが見られた。石室規模は、石室全長 4.7 m、玄室部長 3.6 m、玄門部幅 1.3 m、奥壁幅 1.3 m、最大幅 1.6 m を測り、やや胴張り呈している。前庭部長 1.1 m、前庭部幅 0.95 m、墓道長 1.5 m、墓道幅 (0.85) m で、排水溝を



第5図 稲荷山3・4号墳調査平面図

設ける。出土遺物には、金属製品の鍬・刀子、須恵器の坏身・坏蓋・高坏蓋・盃・直口壺がある。構築時期は、6世紀後葉でも早い時期と考えられる。

3) 稲荷山4号墳

4号墳は、直径約16.8m、残存高約2.0mの円墳で、最大幅約4.1mの一部途切れた周溝を巡らす。主体部は、主軸をS-63°-Eとする、西側に開口する無袖(式)の横穴式石室で、玄門部は上り段構造となる。墳丘北東は開墾で削り取られ、敷石は玄室奥が、右側壁も羨道より前面は無く、天井石も無くなっており、激しい攪乱を受けている。墳丘には直径約9.4mの外郭石列と、直径約8.0mの円形の控積みが見られた。石室規模は、石室全長6.2m、玄室部長4.0m、玄門部幅1.35m、奥壁幅1.2m、最大幅1.4mで、羨道部長1.0m、羨道部幅1.35m、前庭部長1.2m、前庭部幅(1.2)m、墓道長5.2m、墓道幅0.65mで、排水溝を設ける。出土遺物には、鉄製品の鍬・刀子・大刀・刀装具・弓飾金具等、須恵器の坏身・坏蓋・高坏蓋・脚付盃・短頸壺・提瓶・甕等がある。築造時期は6世紀中葉で、その後6世紀後葉に追葬が行われた、稲荷山古墳群形成の契機となった古墳と考えられる。

4) 平場遺構

平場遺構は、3号墳の南東斜面にあって、文政元年(1818)に勧請され、明治初年に春日神社に合祀され、現在境内末社の一つとなっている稲荷社の旧社地とみられる。遺構は、比高3.8mの上下二段の平場と、これを繋ぐ素掘りの階段状の掘り込みからなる。上段の平場1は、長さ5.0m、幅3.7mで、0.2m前後の礎石状の石が残存していた。下段の平場2は、北東側の石垣列を確認していないため、検出状態では斜面基底部をL字状(本来はコ字状か?)に囲むもので、上面の長さ11.5m以上、幅4.3mで、石垣中央と平場1への素掘り階段が作られている。出土遺物には灰釉陶器、瀬戸美濃産陶器の乗燭・灯明皿、土師器皿が出土した。この内瀬戸美濃産陶器は、瀬戸本業焼編年Ⅲ-9~11期の18世紀前葉~中葉と考えられる遺物である。

(註)

①『多米郷土誌』には、「寺門古墳 三基発掘され上器の一部は残っている。須恵器で明治三十四年発掘と記され小学校に残されている。・・・また、小学校の運動場の下に二基未発掘の古墳がある。石室その他は不明。」と記載している。小学校に所蔵される須恵器は、坏身・坏蓋2・高坏蓋3・高坏3・長頸壺2・壺2・盃1の18点で、湖西窯系が鈴木編年〔鈴木2001〕のⅢ期中~後段階・Ⅳ期段階、猿投窯系が尾野編年〔尾野2000〕のH-44~H-50号窯期と考えられ、6世紀後葉を中心とするようである。

・岩原剛(2002)「多米小学校所蔵古墳出土須恵器について」『稲荷山古墳群』第65集、113・114頁、豊橋市教育委員会

(引用・参考文献)

・多米郷土誌編纂委員会(1967)『多米郷土誌』10~12頁、多米町

・豊橋市史編纂委員会(1972)『豊橋地方の古墳』『豊橋市史』第1巻、115~139頁、豊橋市

・岩原剛(2002)「稲荷山古墳群の概要」『稲荷山古墳群』第65集、8~10頁、豊橋市教育委員会

第2節 調査に至る経緯

平成19年8月、南陽不動産有限公司(以下、「開発者」という。)は、自己が所有する愛知県豊橋市多米町字寺門37-2外の面積5,589㎡において計画した宅地造成工事に伴い、埋蔵文化財の有無について市教育委員会に問い合わせを行った。当該地は、平成13年度調査地の西側で、その後3号墳と4号墳の存在した尾根は20m以上削平され、写真1の状態となっていた。これに伴い市教育委員会では、開発予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である稲荷山古墳群の1号墳と2号墳が存在すること、さらに新たな古墳の存在や、写真2と写真3の1号墳西側の尾根上に露頭する自然石の存在が何か意味するのかなど、試掘調査の必要性が説明された。8月、開発者は市教育委員会による試掘調査を了承した。9月、市教育委員会は第6図にある合計14本、幅1m×延長176mの試掘調査を実施した。この結果、試掘トレンチの各所において古墳時代後期の遺物の出土があり、1号墳の奥壁東側では5個の管玉が発見された。しかし、露頭した自然石周辺では、遺物の出土も何らの遺構も検出されなかった。市教育委員会は、試掘調査の結果を受けて2号墳の本調査の必要性を開発者に説明し、調査期間や調査費の調整を行ったが、開発者の着手時期や調査費との間に大きな相違が見られた。このため市教育委員会は、開発者の要望事項を満たすことが出来る民間調査機関を導入することで開発者の同意を取付け、開発者が国際文化財を選任した。これにより調査方法や遺物の帰属等について市教育委員会・開発者・国際文化財が三者協定を締結し、市教育委員会が仕様書と週一回の打合(工程)会議により調査を指導監督し、開発者と国際文化財が委託契約を締結し、国際文化財の実施計画書により調査することで合意が成立した。

開発者は、平成19年11月26日付けにて文化財保護法第93条第1項の発掘届を提出。国際文化財は、平成19年12月5日付けにて同法第92条第1項の発掘調査通知を提出。三者協定と業務委託契約を、平成19年12月20日付けで締結し、現地調査を平成20年1月～3月末まで、整理調査と報告書の刊行を平成20年12月末まで実施することとなった。

第3節 調査の経過

発掘調査は、1面の遺構面で、合計1,100㎡を、平成20年1月10日～3月31日まで行った。

準備作業は、平成19年12月25日～平成20年1月9日まで、開発者が樹木の伐採と搬出、進入路の設置を行った。国際文化財は、1月6日～9日の間にプレハブ用地の整地、仮設プレハブ・仮設トイレ・発電機・工事看板の設置、仮設水道の敷設、プレハブ内電気工事、備品の搬入、基準点・水準点の新設、作業員採用面接、地元自治会・多米駐在所への挨拶等を終了した。

発掘調査は、準備作業を1月6日から行い、1月10日に現地調査に着手し、新規入場者講習、



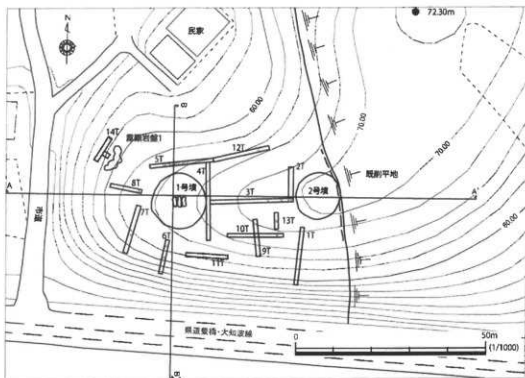
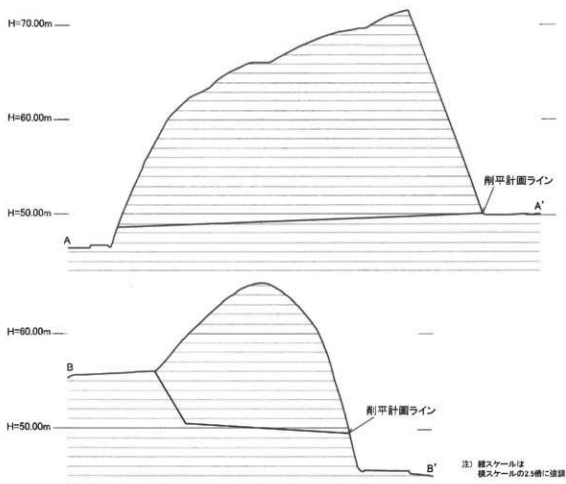
写真1 現況崖面



写真2 岩盤露頭1



写真3 岩盤露頭2



第6図 試掘トレンチ位置図・削平縦横断面図

安全祈願、安全柵ネットの設置、切株の地際での根切り、樹木・草等の除去と清掃、グリット杭の設置を行い、1月16日にラジコンヘリと調査員による調査前の現況写真撮影を、その後デジタル平板による測量を実施した。表土掘削は、墳丘から周溝周辺にかけて人力で行い、1月18日～1月31日まで1号墳を、2月6日～2月15日まで2号墳を、2月13日～22日まで墳丘外の急斜面を重機と人力を併用して実施した。攪乱土・墳丘崩落土等の掘削と石室内の掘削は、2月1日～3月12日まで1号墳の墳丘と4次床面までの掘削を、2月18日～3月12日まで2号墳の墳丘と1次床面までの掘削を行い、3月13日に両古墳の全景撮影を行った。1号墳の石室床面の掘り下げは、3次床面～1次床面までを3月15日～25日に行った。墳丘・石室の解体は、3月22日～31日まで1号墳を、3月15日～21日・31日まで2号墳の掘削と調査を行い、3月31日の市教育委員会による確認立会をもって現地調査を終了した。撤去作業は3月31日～4月2日に実施し、終了後に開発者と市教育委員会に完了報告を行った。

なお、発掘調査に並行して3月8日～31日まで土嚢袋約660袋の石室内掘削上の洗浄作業、出土遺物の洗浄と注記作業を実施した。

発掘調査終了後、出土資料の基本的な整理を終了した平成19年5月20日に、発掘調査完了報告と埋蔵文化財保管証を、市教育委員会を通じて県教委に提出し、同時に埋蔵物発見届を豊橋警察署に提出した。

本格的な整理調査は、6月より遺物の接合・実測を始め、8月よりトレース・レイアウト等、9月から写真図版・挿図の作成、原稿作成と編集を行い、11月に印刷原稿を作成して12月末に報告書を刊行した。また、出土遺物、写真・図面等の調査記録を市教育委員会に移管した。

各作業の経過と工程は、調査方針の経過も含め記録しておく必要を感じるため、煩雑ではあるが下記の調査日誌抄録と作業写真を掲げておく。

《調査日誌抄録》

- ・1月6日(日) 須沼の中部調査事務所より、機材を4tトラック1台に乗せて稲荷山に搬入。
- ・1月7日(月) 重機にてコンテナハウス設置場所と現場進入路の整地作業を実施。山下に工事看板設置。多米町自治会長・多米駐在所に挨拶。
- ・1月8日(火) 基準点測量。仮設プレハブ・発電機の設置。古墳上の小木伐採。
- ・1月9日(水) トイレ・備品搬入。電気工事。調査範囲の設定杭打ち。作業員新規面接。
- ・1月10日(木) 新規入場者講習。安全祈願(写真4)。安全柵(ネット)設置作業。落葉清掃作業。切株の根切り作業。
- ・1月11日(金) 場内進入路安全柵(トラロープ)設置。1号墳の東側・北側・西側と石室内の落葉清掃作業。清掃中の表土出土遺物(№001～008)。切株の根切り作業。
- ・1月14日(月) プレハブ北側から仮設水道敷設。
- ・1月15日(火) 落葉清掃作業終了。清掃中の表土出土遺物(№009～014)。敷地北側にも安全柵(ネット)設置。2号墳西側の現況測量終了。ラジコンヘリ撮影の実施連絡(多米町自治会長・多米駐在所)。初回打合会議開催。
- ・1月16日(水) 標定点の設置と測量。ラジコンヘリによる空撮と現況写真撮影終了。1号墳西側・東側の現況測量終了。



写真4 安全祈願

- ・1月17日(木) 追加写真撮影終了。〔1号墳〕1号墳南側・北側の現況測量終了。墳丘十字分割線設定終了。
- ・1月18日(金) グリットの杭打終了。補足(自然石と天井石入れ込み)現況測量終了。〔1号墳〕1・3・4区の表土掘削を開始し、転落石を検出。〔2号墳〕現況測量開始。
- ・1月21日(月) 昨夜からの大雨により現場作業中止。現況測量図面作成ほか。
- ・1月22日(火) 〔1号墳〕トレンチ基準杭設置。1・3・4区表土掘削、各区転落石を検出、3区にて周溝検出。出土遺物(№015～036)が4区の一部(盗掘時の排土?)に広がる。
- ・1月23日(水) 雨天現場中止。第2回打合会議開催。
- ・1月24日(木) 〔1号墳〕1・3・4区表土掘削、転落石を検出。22日(火)同様、出土遺物(№037～086)が4区の一部(盗掘時の排土?)表土層(写真5)に広がる。朝から寒い強風が止まず。
- ・1月25日(金) 朝から寒い強風であるが、快晴。プレハブ前には5cmもある霜柱が見られた。強風のため作業員にもゴーグルを用いる人が増え、小石や土が飛び顔に当たる状況。また、地面を網目状に覆う根は、作業を遅延させている。〔1号墳〕1・3・4区表土掘削。1区斜面にて、良好に遺存する転落石とは違う大型の石からなる墳丘内石積?と思われる石組の一部を検出。22日(火)・24日(木)同様、出土遺物(№087～177)が4区の一部(盗掘時の排土?)表土層に広がる。また、3区周溝上面から転落石に須恵器破片が2点出土。
- ・1月28日(月) 〔1号墳〕1・3・4区表土掘削5日目。1区と2区境の北側斜面にて、表土の上に盛土が落下して重なり、サンドイッチ状態となった地層が見られ、その下部より転落石とは異なる大型の石からなる墳丘内石積?と思われる石の一部を1区同様に検出。2Cグリットの出土遺物が先の状況と同じように4区の一部(盗掘時の排土?)表土層に広がる。また、3区周溝上の転落石がほぼ明らかとなるが、墳丘裾の縁石は特に見あたらない。出土遺物(№178～271)中には、1区西側調査区外岩盤露頭部の表土層上から表層した、埴輪片?(№290)の様な1点が含まれる。
- ・1月29日(火) 雨により現場作業中止。図面作成、管理文書作成、遺物整理ほか。
- ・1月30日(水) 2月より直雇い作業員を増員予定(4～5名)。門屋部長来跡。第3回打合会議開催。〔1号墳〕1・3・4区表土掘削、4区の一部(盗掘時の排土?)表土層に広がる遺物小片は、調査範囲外の南斜面にまで広がっており、盗掘による排土が雨により流出したためと判断される。また、3区周溝の溝肩を確認(写真6)。出土遺物(№272～386)は、4区集中地点を中心に出土。墳丘上の転落石の図化作業開始。
- ・1月31日(木) 強風により安全柵が斜めになってきたため、補修実施。〔1号墳〕1・3・4区表土掘削は、3区・4区表土掘削終了。3区・4区の周溝掘削開始。周溝内堆積土より、少ないが遺物が出土し始める。出土遺物(№387～464)は、4区集中地点の下部中心に出土。墳丘上の転落石の図化作業。
- ・2月1日(金) 新規入場者講習(対象10名)は、安全教育(「発掘調査現場安全衛生テキスト」・「作業員心得」による)と作業指示についてほか。安全大会(写真7)は、「発掘調査の必要性」ほか。作業員進入路入り口が土砂の搬出で狭められたため、安全柵の増設。後藤副館長・費主任来跡。〔1号墳〕1区表土掘削終了。2区は本日より表土掘削開始。出土遺物(№465～517)は、3区周溝内堆積土と4区盗掘時の排土?表土層内から出土。
- ・2月4日(月) 新規入場者講習(対象5名)は、安全教育と作業指示ほか。昨夜侵入者の痕跡があり、北側に安全柵(ネット)を増設し、進入禁止看板4枚を増設。〔1号墳〕1・4区の遺構平面図作成。4区盗掘時の排土?部分の再精査と周溝掘削。3区周溝掘削はほぼ終了。2区表土掘削2日目。出土遺物(№518～609)は4区盗掘時の排土?部分と3区周溝内堆積土から出土。



写真5 4区墳丘遺物取上状況



写真6 3区周溝確認



写真7 2月度安全大会

・2月5日(火) [1号墳] 3・4区の遺構平面図作成。十字畦の壁面ライン入れ終了。4区盗掘時の排土?部分の再精査と周溝掘削終了。3区周溝掘削完了。1区周溝掘削完了。北側周溝は土取重機による掘削により、溝の半分程度が残る状態。転落石上の表土層より平安時代の灰釉陶器片(壺・皿)が出土。2区表土掘削3日目。急斜面に粘質土の溝痕跡が残る周溝内より小片ではあるが遺物も出土。出土遺物(№610～654)は、4区盗掘時の排土?部分と1・2区周溝内堆積土から出土。

・2月6日(水) 土取重機による土砂採取が進み、プレハブ東側に大穴が開きトイレと発電機は搬出不能に。明日からは西側の土取掘削が行われるとみられ、作業員の安全が心配される。第4回打合せ会議開催。[1号墳] 畦面写真撮影と写真測量を終了し、畦撤去開始。出土遺物(№655～657)は、2区周溝から出土。[2号墳] 表土掘削開始。石室上の腐植土(表土)をはずし、石室主軸の確認。十字畦の設定(なお、北畦は崖面方向で設定が出来ないため、やや西側にふって設定)。出土遺物(№2001～2003)は、表土層より現代陶磁器が出土。

・2月7日(木) 土砂採取は東側で小規模に行われる。[1号墳] 午前中に畦を撤去し、昼より転落石検出状況の全景撮影実施。3区平面図測量。出土遺物(№658～663)は東畦などから出土。[2号墳] 表土掘削2日目。石室内陥没(攪乱)坑の腐植土(表土)下に床面散石が検出された。側壁の石は一段程度で殆ど抜かれている可能性が高くなった。南側周溝上の一部に、石の大きさを覚えて平坦面(斜面が大きく、平坦面が小ぶりな石散)を作る2015Xを検出。出土遺物(№2004・2005)は表土層より須恵器などが出土。

・2月8日(金) 土砂採取は、新たに西側で土取重機により岩盤を砕いて、8台のダンプにより大規模に搬出が開始され、測量機材が振動で誤作動を起こすトラブルが続出。1号墳の平面図測量がやや遅れているため、2/11(月)測量作業のみ実施。中村中部調査事務所長来訪。[1号墳] 3区の転落石を撤去し、周溝を完掘。玄室西側の羨道の検出作業開始。玄室よりやや南に振る右側壁の延長部とその裏込め、左側壁を部分的に検出。来週より断面用畦を設け、羨道の検出と玄室の掘り込みを開始。1・2区の平面図測量。出土遺物(№664～690)は、3区周溝転落石下などから出土。[2号墳] 表土掘削3日目。1区の北側・西側が表土層除去予定範囲に達する。延長の残りは極めて悪い。部分的に残る表土の除去を、来週に再度実施。3・4区については継続実施。出土遺物(№2006～2016)は、表土層より出土。出土遺物の量は、盗掘を受けているため極めて少なく、1号墳4区の盗掘の排土の方法とも異なる。

・2月11日(月) 2/9(土)雨から初雪になる。土砂採取は本日も実施。[1号墳] 3区平面図測量終了し1・2区は継続。

・2月12日(火) 雨のため現場作業中止。本日(雨中も含め)より重機(0.15m)を搬入し、作業員棟の整地、進入路の掘削、排土移動を実施。土砂採取は砕石の敷設を行う。雨の日でも作業を行っており、苦情が出たもよう。1号墳の平面図測量図化作業(内業)。出土遺物の番号確認と箱入れ整理実施。

・2月13日(水) 土砂採取は行われず。第5回打合せ会議実施(写真8)。<[1号墳] 羨道検出作業は、右側壁を良好に検出しつつあり、左側壁は抜き取られて全ては存在していない可能性が高い。4区の転落石を除去し、周溝部の完掘作業に入る。明日完了。午前中に、重機により南側排土の移動。出土遺物(№691～701)は、羨道と周溝転落石下より出土。1・2区平面図測量図化作業。[2号墳] 表土掘削は北側がほぼ終了し、南側は東半については終了したが西半については半分程度、西側は後1日程度と重機掘削部分が残る。南側西半の2015Xでは矩形に小角礫を敷く部分があり、この部分から瓶子等が出土している。この2m余り南側で、須恵器密の小片が比較的多く出土する部分がある。祭祀の可能性もあり要注意。午後より重機による墳丘外の表土掘削を開始。強風のため粉塵が酷く排土移動に切り替え。出土遺物(№2017～2036)は、周溝内堆積土と表土層より出土。

・2月14日(木) 土砂採取は行われず。[1号墳] 羨道検出作業は、左側壁の抜きとりで側壁を新たに確認。右側壁羨道で、ハの字状に広がる羨道入口を確認。4区周溝部の完掘作業終了。排土で一部未掘であった南側部分を、重機を入れて移動し、人力で清掃。1区の転落石を一部撤去。明日、本格的に2区と共に転石撤去と周溝の完掘、全景写真を目指す。出土遺物(№702～715)が羨道の埋積土と周溝より出土。転落石検出状況の平面図測量図化作業終了。明日、1号墳全景写真を午後予定。[2号墳]



写真8 第5回打合せ会議

表土掘削は、北側が終了、南側もほぼ終了。西側は重機掘削を再度行う必要がある。4区の周溝検出と掘削に入る。4区南西部にて周溝内埋積土より須恵器小片が出土。出土遺物(№2037～2065)は、周溝内と表土より出土。

・2月15日(金) 土砂採取実施、危険。(1号墳) 羨道検出作業は終了。幅約0.9mの羨道主軸がやや南に振るため、当初の十字畦では縦断面の中央を維持できないことが明らかとなる。このため、十字畦中央からやや南に振る東西ラインを設ける。奥壁(鏡石)を基準に2m区画とし、奥壁から1区～5区と順次前庭まで呼称し、南北は「N」「S」で表す事とする。今後、南側Sを地区毎に断面観察を行いながら掘り下げるものとする。3区の一部未掘であった周溝外南側部分を、重機を入れて掘削し人力で清掃。特に遺構・遺物等は検出・出土なし。1・2区の転落石を撤去し、周溝を完掘した後に、午後より転落石除去後・周溝完掘状況の全景撮影実施。出土遺物(№716～723)は、羨道の埋積土と1・2区周溝完掘時の遺物である。(2号墳) 表土掘削は、重機掘削部分を残し終了。午後より4区にて周溝の掘削開始。出土遺物(№2066～2076)は周溝内より出土。平面図測量図化作業開始。

・2月18日(月) [1号墳] 羨道掘削作業は、2Sと4Sを中心に行う。掘削土は土嚢袋に入れ、プレハブ西側に積み上げ保管。2区東側の未掘であった周溝外を、重機を入れて掘削し人力で清掃。特に遺構・遺物等は検出・出土無し。1区転落石上の一番大きな石室材1石を撤去して写真撮影。本日の遺物は出土無し。1号墳羨道上の石平面図作成開始。(2号墳) 1区と4区にて周溝の掘削。2号墳の平面図測量図化作業継続。出土遺物(№2077～2081)は周溝内より出土。

・2月19日(火) [1号墳] 羨道掘削作業は、2S・3S・4Sをほぼ終了。底面に敷石が見られる。羨道上の転落石撤去のため平面図作成。明日より断面図作成と玄室内掘削開始。遺物は出土していない。1号墳羨道上の石平面図作成継続。(2号墳) 1区・2区と4区にて周溝の掘削。2区より新たに列石が出土。明日、転落石検出状況の全景写真撮影予定。出土遺物(№2082～2086)は周溝内より出土。

・2月20日(水) 作業員の進入路(階段)設置。東側土地所有者2名が遺跡見学。第6回打合会議開催。(1号墳) 羨道は、断面にライン入れ。明日、断面図を作成。玄室は、明日より天井石落下防止のパイプサポートを設置。墳丘掘削開始し、墳丘内石積を検出。1列目を3・4区で検出。遺物は、奥壁東側の攪乱部を中心に№724～731が出土。重機による表土掘削継続中。(2号墳) 畦の写真及び全景写真撮影終了。平面図測量継続中。出土遺物は無し。

・2月21日(木) [1号墳] 羨道は、断面図作成終了。明日より羨道掘削。玄室は、パイプサポート(6基)を設置しジャッキアップ終了。その際、現代の鉄製スクレイパー(№741)が出土。墳丘掘削を開始し、3区では墳丘内石積1列と、その外側に石積2列を検出。出土遺物(№732～746)は、前日同様に奥壁東側の攪乱部を中心に出土。重機による表土掘削継続中、明日で一応終了。(2号墳) 畦を撤去し全景写真撮影終了。平面図測量継続中。出土遺物は、畦内より№2087が出土。

・2月22日(金) [1号墳] 羨道は、羨道北側(N)掘削。内側に落ちる側壁石1石と天井石1石を人力で移動。玄室は、断面部分掘削。墳丘掘削は3区では石積1列(第3重石積)と、その外側に2重の列石であったが、さらに1列目内に石積を検出。1区・2区では石積1列と2列目(第2重石積)を検出。特に1列目は極めて残りが良く、石垣と同じ状態。4区では、残りが悪いが1列目と2列目を確認。出土遺物は、前日同様に奥壁東側の攪乱部を中心に№747～764が出土。重機による表土掘削終了。2/25(月)に重機により南側墳丘上天井石一石を移動予定。墳丘構造の調査については、当初は各石積の1石目を見せて墳丘写真を予定していたが、もともと第3重石積が低く外護列石の高さがそろわないため、パベルの塔状態での撮影とする。1・2区天頂部(第2重石積)内では、石室から放射状に2列地中梁を検出。3区でも石室軸に平行な1列を検出しており、墳丘構築が極めて特異な構造となっていることが明らかとなってきた。(2号墳) 平面図測量終了。2/25全員で転石はざしと周溝を完掘し、全景写真撮影実施予定。出土遺物は、№2088が出土。

・2月23日(土) 出土遺物の整理(台帳整理)と洗浄、掘り道具の整備調整、写真のファイル整理を実施。

・2月25日(月) [1号墳] これまで羨道と考えていた部分は、玄門を設けた石片袖(式)の玄室内と判明した。このため、現在掘削している2区N・Sは玄室内西側の前半部分であることが明らかとなった。また、閉塞石は少なくとも羨道入り口の小石積と、羨道と玄室境の中石積の2箇所とみられるが、検討が必要。墳丘掘削では、各区で第2重石積と低い第3重石積が、

その外側では複数列の列石を検出。また、3区では、列石の間が墓石状の敷石となっている。出土遺物は、墳丘内の列石上を中心に№765～783が出土。重機により4区南側墳丘上に移動されている天井石1個を調査区外に移動。その後、表土掘削継続。1号墳の外観は城塞のようであり、畿内式の古墳の外観とはかなり異なる。また、地中梁の様な石列が墳丘上にも見られ、極めて丁寧な構築がなされていることが明らかとなりつつある。羨道については、閉塞石の前後関係とともに、繋穴系の可能性についても注意して調査を実施する必要がある。(2号墳)転石を撤去し周溝を完備して、全景写真撮影終了。平面図測量終了。

・2月26日(火) 石室内の土砂洗浄のため、コンテナハウス西側に重機で整地しテント1張りを建てる。4本の支柱は杭にて固定。3月より2名程度にて開始。午後より雨となり作業を中止。午後は洗浄土器の整理と図面作成を実施。(1号墳)石室内の2N・2Sは地層境で止め、明日より床面までの状況を一部掘り下げて確認することとする。3区羨道閉塞石上の掘り下げを開始する。墳丘掘削では、雨に備え仮置きしていた掘削土を全て撤去。4区が後1日程度で終了。1・2区はまだ2段目の石積を掘削したのみであり、さらに周溝までは数日必要とする見込み。出土遺物は、墳丘内の列石上を中心に№784～791が出土。3区より石積等の平面測量開始。(2号墳)未着手。

・2月27日(水) 一日中寒い強風で、石質や土嚢袋が飛ば大変な一日であった。第7回打合会議開催。(1号墳)玄室内の1区を掘削開始。表層12層はネズミの糞やコガネムシの果、現代の遺物が入り全て廃棄。堆積層から1区S側の掘削を開始する。墳丘掘削では、昨夜の大雨により少しぬかるんではいたが、終了した3区を除き掘削を継続。2区では列石は確認できなかったが、1区では現場終了間近に墳丘内石積北側に列石が現れる。明日、転石を撤去し列石の状況を確認。出土遺物は、列石上を中心に№792～823が出土。特に4区南西部より須恵器が集中して出土した。平面測量は3区墳丘内石積終了。(2号墳)未着手。

・2月28日(木) [1号墳] 石室内1区の壁面図(縦断と横断)作成。その後、1区N側の掘削を開始する。2区・3区・4区は墳丘掘削完了。1区は列石と敷石が広がるが、明日には終了予定。十字畦の分層を行い、写真撮影と壁面図測量後に撤去。出土遺物は、墳丘内の列石上を中心に№824～849が出土。特に1区上層敷石周辺より灰釉陶器片が出土。平面測量は2区墳丘内石積の測量終了。重機掘削については、本日で一応終了。明日より閉塞石の撮影と測量を行い、切り合いの確認と撤去を実施予定。(2号墳)未着手。

・2月29日(金) [1号墳] 石室内の羨道閉塞石の写真撮影と測量、撤去開始。閉塞石の切り合いについては3回程度を考えていたが、大きな差は見いだせなかった。石室内の掘削は、平石があり山土が混ざるやや硬い層で止め、それより上層について玄室1区N側とS側の掘削をほぼ終了。1区は列石・敷石検出終了。出土遺物は、墳丘内の列石・敷石上を中心に№850～870が出土。平面測量は1区石積の測量。(2号墳)墳丘掘削開始。石列？を検出するが、裏込めか墳丘内石積かは不明。石室の検出を開始し、左側壁確認。本日は、他地区の作業員の応援を得て、作業効率が極めて良かった。

・3月1日(土) プレハブ前にて土砂採取が行われ、重機(0.15m)の車体側面を破損させられ、足下を削られて崖上に残される。連絡を受け工事業者に損害を訴えると共に、リース会社が崖下に移動し事なきを得る。

・3月3日(月) 新規入場者講習(対象14名、講師辻、8:30～9:50)新規書類関係、安全教育(「発掘調査現場安全衛生テキスト」・「作業員心得」による)、作業指示他。委託者に土砂掘削の中止を求めると共に、2号墳を3月末まで、1号墳については4月初めまでの現地調査について協力を依頼。(1号墳)羨道の1次床面に係わる閉塞石の除去と清掃。明日写真撮影。玄室内の4次床面までの掘削。出土遺物は、2/29(金)に出土した調査範囲内№871のみを取上。1区・2区の平面図測量継続中。(2号墳)石室の検出は、左側壁のみ検出されたが、右側壁については明瞭なものが無く不明。墳丘掘削では列石を2列検出したが、いずれも残りが悪く2段が確認されたにすぎない。出土遺物は、墳丘掘削土より№2092～2095が出土した。

・3月4日(火) [1号墳] 羨道の2次面に係わる閉塞石の写真撮影終了。玄室内の4次床面までの掘削。明日、写真撮影。出土遺物は、石室内炭化物№872・873を取上。これまで、掘乱層以外で石室内からの土器の出土は1点もない。1・2区の平面図測量継続中。1号墳の4次床面石室規模は、右片袖(式)の横穴式石室で、玄室長4.6m×玄室幅1.6m×高さ1.9m、羨道長4.2m×幅0.5～0.8mで、石室全長は約8.8mと判明。(2号墳)石室の検出は、既に検出した左側壁に次いで、奥壁2石と奥壁隅の右側壁の一部を検出した。奥壁の側壁幅は約1.6mである。墳丘掘削では墳丘内石積らしきものを2列検

出し、次第に北側の1区に拡張しつつある。南側の残りは極めて悪く、殆ど残っていない。南側の畦は、分層と写真撮影終了。出土遺物は、墳丘掘削土より№2096～2128が出土した。

・3月5日(水) [1号墳] 玄室内の4次面までの写真撮影を実施するが、快晴のため再度明日実施。2区と義道の平面図測量継続中。墳丘内石積の洗い実施。[2号墳] 石室の検出は、先日検出した側壁を追うように義道に拡張。墳丘掘削では墳丘内石積2列を拡張するが、残りが悪く途中で消滅。出土遺物は、墳丘掘削土より№2129～№2149が出土した。第8回打合会議開催。

・3月6日(木) 明日より1号墳石室内の土の洗浄を開始予定(3人が1週間交代で実施)。[1号墳] 玄室内の4次面までの写真撮影を実施。義道の平面図測量終了。墳丘内石積の洗い。[2号墳] 石室の検出は、石室内に落ち込む石の検出状況について明日写真撮影予定。墳丘掘削では裾部の一部を除き墳丘内石積をほぼ掘削終了。出土遺物は、墳丘掘削土より№2150～2167が出土した。

・3月7日(金) 現地説明会の開催について、開発者から実施の了解を得る。ラジコンによる空撮予定を3/13(木)とする。予備日を翌日3/14(金)とする。なお、午前8:00頃に辻・石松が現場に出勤したところ、2号墳崖下の坂道に1mのピンボール7本を発見した。いずれも弓状に曲がっていた。墳丘上を確認したところ、遺物を取り上げた所に刺していた鉄釘串が2箇所飛散されていたが、他に大きな損害は生じていなかった。投げ捨てられたピンボールを置いていた排土置き場には複数の小型の足跡が確認でき、前日の夕方職員が帰宅した6:40以降に子ども？か誰かが進入した悪戯と思われる。[1号墳] 石室内の掘り下げと3次床面の検出作業。義道の榎石1の撤去と石敷き延長作業。榎石1の下にさらに榎2が出土。墳丘内石積の洗い。[2号墳] 石室内の写真撮影終了。測量開始。墳丘掘削では義道入口下裾部の周溝内より、転落した敷石間に短須蓋の破片が露出して出土。写真撮影と出土状況図を作成。南畦と西畦を写真撮影・実測後に撤去。出土遺物は、墳丘掘削土より№2168～2195が出土した。[内業] 1号墳石室内の土の洗浄を開始する。初日は17袋で、特に成果無し。

・3月8日(土) [1号墳] 特になし。[2号墳] 石室内転落石の平面図測量を実施し終了。

・3月10日(月) 午前中は小雨が降りたり止んだりであったため、現場作業は中止とした。[1号墳] 墳丘平面図作成終了。[2号墳] 石室内の転石除去。石室内の掘り下げ開始。奥壁下では床面が検出されたが、他の部分では転石がまだ見られ再度取上と測量が必要か。奥壁・左右側壁は明確になる。墳丘掘削では義道入口下裾部の周溝内より、3/7(金)について転落した敷石より同一個体の短須蓋の破片が出土。写真撮影と出土状況図を追加作成。出土遺物は、石室内と周溝より№2196～2199が出土した。[内業] 遺物の洗浄後の整理等を本日より1名にて継続して行う。1号墳石室内の土の洗浄2日目は21袋で、特に成果無し。

・3月11日(火) 重機(0.15ml)を本日より排土に使用。[1号墳] 石室の南側の掘り込み開始。1S区は、安定した平石も見られるがやはり攪乱が激しい。2S区は、掘り下げを開始したが、床面まで達していない。なお、一部玄門下を掘りこんだところ、下部より須恵器が出土し、1次床面の深さが明らかとなった。出土遺物は無かった。[2号墳] 石室内の2回目の床面敷石上までの断面図の作成・撮影、転石の測量・撮影を行う。その後、転石撤去。明日、敷石までの掘り下げを実施。なお、2S区の左側壁際の敷石上より、完形の須恵器提振(1)と坏身(2)・杯蓋(2)が出土(写真9)した。即日、写真撮影と測量を実施。出土遺物は、石室内より№2200～2208が出土した。[内業] 遺物の洗浄と乾燥後の注記を実施。1号墳石室内の土の洗浄3日目は22袋で、特に成果無し。



写真9 2号墳床面出土土器

・3月12日(水) これまでの西・北風が、始めて東風となる。第9回打合会議開催。明日3/13のラジコンヘリ空撮用の標定点測量を実施。重機(0.15ml)にて排土山を作る。[1号墳] 石室の中央の十字畦の断面図追加と撤去を実施。3次床面の硬化面より下層に比較的可なり層があり、この層の下が1次床面と確認した。撮影までに掘り下げを予定していたが、畦の撤去を行って空撮を行うことにした。出土遺物は特に無



写真10 2号墳床面敷石清掃

かったが、玄門近くで横板・坏身・坏蓋・甕等が出土している。〔2号墳〕石室内の敷石までの掘り下げ、側壁抜き取り穴の検出と洗いを実施（写真10）。閉塞石の撤去を残し石室内の掘削は、全て終了した。出土遺物は、墳丘より№2209～2211が出土した。〔内業〕1号墳石室内の上の洗浄4日目は、25袋（計85袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を継続して実施。

・3月13日（木） ラジコンヘリ空撮と調査員による撮影を実施（写真11）。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄5日目は21袋（計106袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を継続して実施。約半程度終了。

・3月14日（金） 雨のため現場作業は中止（静岡西部大雨洪水警報発令）。雨の間に2号墳石室内の再撮影実施（8:30～9:10）。現地説明会用のチラシ配布（多米小学校、自治会長）。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄6日目は34袋（計140袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を継続して実施。

・3月15日（土） 昨夜までの大雨の影響は特になし。重機（0.15ml）による排土実施。〔1号墳〕3次床面掘削（板石2撤去）。〔2号墳〕石室南側の石積掘り出しと断面写真。羨道の閉塞石下より馬具出土（№2224）。出土遺物は、墳丘盛土7層と閉塞石内から№2212～2225まで出土。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄7日目は、49袋（計190袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を継続して実施。～№840まで洗浄済み。注記～№600まで済み。

・3月17日（月） 大雨の影響の出た流出部の土砂整理。重機（0.15ml）にて排土作業。〔1号墳〕石室内2次床面測量開始。取上遺物は、中央の2次床面付近より灰釉陶器5点と床面より浮く須恵器壺胴部破片1点など石室内から№874～879まで出土。1次床面（石敷上）より馬具を姿を現す。〔2号墳〕石室北側の石積の掘り出しと断面写真終了。羨道の閉塞石を撤去し、排水溝を検出。西側壁が排水溝の真上であったため、縦断面となる。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄8日目は64袋（計254袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を継続して実施。

・3月18日（火） 現地説明会の準備のため階段増設。重機（0.15ml）にて排土作業。〔1号墳〕石室内2次床面測量終了。灰釉陶器等№874～879取上（写真12）。1次床面より鉄鍬群・鉄刀・刀子等が出土（写真13）し始める。〔2号墳〕側石1石を残し構築土7層を掘り下げて、裏込めを掘り上げて終了。現地説明会のため、床面の敷石のみ残り終了。排水溝は、石を掘り上げ終了。取上遺物は、排水溝石下より№2239～2279が出土。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄9日目は76袋（計330袋）で、特に成果無し。遺物の洗浄と乾燥後の注記を～№700まで継続して実施。

・3月19日（水） 現地説明会の準備のため資料の印刷。重機（0.15ml）にて3/24（月）の重機（0.45）進入路整地作業。第10回打合せ実施。〔1号墳〕1次床面掘削。取上遺物は、特になし。〔2号墳〕測量午前中で終了。

・3月20日（木）春分の日 現地説明会は雨天のため中止。重機（0.45ml）を回送。土器洗浄・注記・土器接合・図面作成を実施。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄10日目は35袋（計365袋）で、1号墳1次床面より鉄製品2点。2号墳周溝の須恵器短頸壺の接合を実施。

・3月21日（金） 時間に関係なく現れる古墳見学者により、休憩も昼食もとれず。〔1号墳〕1次床面掘削。3箇所（奥壁下・中央部2箇所）から玉類の出土があった。盗掘の危険性があるため、即日取上。また、玄室の1S・2Sの須恵器・土師器・馬具等を撮影測量後に取上。墳丘は第3重石積を撤去。第2重石積1段目の基底（写真14）部



写真11 空撮用ヘリの準備



写真12 2次床面遺物出土状況



写真13 1次床面検出状況



写真14 第2重石積1m角



写真15 1次床面馬具2出土状況

まで掘削(北側1・2区終了・南側3・4区は未完成)。取上遺物は、2区石敷部分と4区第2重目石積下より滑石紡錘車№903、石室内より№880～966(濃緑色碧玉製の勾玉№965・管玉№952～957・960～964、青ガラス製の丸玉№950、馬具の轡(写真15)、鉄鏝、須恵器、土師器)取上。(2号墳)石敷き撤去後、石室内を撮影。全ての調査完了。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄11日目は41袋(計406袋)で、1号墳1次B床面の3/19に25より水晶切子玉1個、鉄製品小破片等が出た。2号墳の遺物洗い開始。

・3月22日(土) 本日も見学者は多かったが、マナーを守る人が多かった。〔1号墳〕1次床面掘削：中央部から3個(№967・1000・1009)の碧玉製管玉の出土が昨日に次いであった。盗掘の危険性があるため、即日取上。また、玄室の1N・2Nの須恵器・大刀等を撮影測量後に取上。また、1Sの炭の広がり下から径30cm余りの焼土上に糶1点が出たし、鍛冶跡とみられる。なぜ、石室内で鍛冶なのかは不明。なお、この鍛冶跡は、床面とは3cm余り上での検出であり、床面直上ではないため2次床面として把握。第2重石積を撤去。1段目の基底部まで掘削(4区は未完成、奥道北側は完了したが南側は未着手)。取上遺物は、石室内より№967～1012(大刀、鉄鏝、須恵器、土師器)取上。(2号墳)無し。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄12日目は37袋(計443袋)で、1号墳1次床面の3/21の1Nガラス製青小玉19個・緑小玉3個、水晶切子玉1個、碧玉製管玉1個、ガラス製青丸玉4個、埋もれ木製黒玉片1個、3/21の1Sよりガラス製青小玉2個、3/21の2Nより瑠璃製勾玉1個、その他鉄鏝片等が出た。

・3月23日(日) 本日も見学者は多かった。〔1号墳〕1次床面掘削(写真16)。中央部の2次床面鍛冶跡の下から2個(№1027・1028)の碧玉製管玉と瑠璃製勾玉1個(№1029)の出土があった。盗掘の危険性があるため、即日取上。また、玄室の1N・1Sの鉄鏝等を撮影測量後に取上。畦撤去後に第1重石積の写真撮影。3区の側壁裏込めの掘削開始。取上遺物は、玄室の1Sと1Nの鉄鏝を中心に№1013～1118まで取上。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄13日目(写真17)は午後半日の14袋(計457袋)で、1号墳1次床面の3/22の1Nガラス製青小玉98個・緑小玉6個・青丸玉3個、碧玉製管玉1個等を探取。



写真16 1次床面調査完了

・3月24日(月) 朝、前線の通過により大雨となる。9時過ぎには上がったが、市道から県道に赤水が流れる。側溝や県道に流れ出した落葉等の撤去を行う。〔1号墳〕1次床面の撮影は、午後からの天候回復が良すぎて実施できず。取上遺物は無し。〔内業〕2号墳の取上遺物の整理は終了。



写真17 洗浄用土砂置場

・3月25日(火) 本日も多米小学校6年生6名、デイサービスセンターあい2名等見学者は多かった。〔1号墳〕1次床面撮影と平面図測量。第1重石積の検出と掘削。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄14日目は34袋(計492袋)で、1号墳1次床面の3/21の1Nガラス製青小玉5個・緑小玉1個、碧玉製管玉3個、水晶製切子玉1個、3/22の1Nガラス製青小玉(104)個・緑小玉14個・黄小玉1個・青丸玉4個、水晶製切子玉1個、3/23の2Sガラス製青小玉17個、3/23の1Sガラス製青小玉8個等を採取。



写真18 石室内土砂の洗浄作業

・3月26日(水) 見学者は、ようやく減少してきた。しかし、今度の上日も見学者のある可能性があり心配される。第11回打合会議実施。〔1号墳〕第1重石積の断面図作成、清掃と全景写真撮影。平面図測量開始。出土遺物は、北畦の1列目丘内石積内上部より須恵器裏片2点出土(№1119・1120)。〔内業〕1号墳石室内の土の洗浄15日目(写真18)は40袋(計532袋)で、1号墳1次床面の3/21の1Nガラス製青小玉4個等を採取。明日より2号墳の洗浄にはいる。注記(写真19)は1号墳土器が100点余り、鉄器が200点余りを残す。



写真19 遺物注記作業

・3月27日(木) 測量のため現場作業中止。〔1号墳〕第1重石積の平面図測量終了。〔内

業) 石室内の土の洗浄 16 日目は、26 袋 (計 558 袋) で、2 号墳を中心に洗浄を行い鉄鏝等が出土した。出土遺物洗浄は、前日出土までの 1 号墳の全てを終了した。2 号墳については、明日以降に実施する予定。注記については、1 号墳が残り 200 点余り。

・3月28日(金) [1号墳] 第1重石積壁面図作成と左側壁石室解体 (写真20)。基底石の掘方を検出し掘削。石敷排水溝検出。排水溝の撮影・測量。排水溝の掘り込み終了。出土遺物は、須恵器裏面 No 1121。〔内業〕石室内の土の洗浄 17 日目は、38 袋 (計 596 袋) で、2 号墳を中心に洗浄を行い鉄片等が出土した。出土遺物洗浄は、全て終了した。注記及び玉類の洗浄を残すのみ。

・3月29日(土) 明日は雨が予想されるため、現場を中止。〔1号墳〕右側壁と奥壁石室の解体 (写真21)。基底石の掘方を検出し掘削。その後撮影・測量 (写真22)。出土遺物は、左側壁奥より 1 石目と 2 石目の間 (裏) より鉄鏝の柄部分のみ 6 個体 (No 1122 一括) が一括出土。故意に石の間に入れ込まれた感じで、祭祀とは思えない。〔内業〕石室内の土の洗浄 18 日目は、敷石上出土最終の 12 袋 (計 608 袋) で、2 号墳を中心に土器片が出土し完了した。注記及び玉類の洗浄についても完了した。

・3月31日(月) 午後3時半に市教育委員会小林氏の立会 (写真23) を得て、調査の完了を確認。市教育委員会の立会後に調査の完了を委託者に連絡して現地調査を終了。プレハブ内の遺物・機材の移動開始。〔1号墳〕基底石を残し敷石と裏込め石を撤去。撮影・測量完了。奥壁は、奥石のみ地山を 0.2 m 余り掘って平石を置いて傾きを調整し据え付けており、他の側石とは設置の仕方が異なる。さらにこれを前後の小石で立てて固定し、さらに左右も複数の小石で固定している。基底石を全て外し、撮影し 1 号墳の全調査を完了。出土遺物は無し。〔2号墳〕奥壁を除き基底石を全て外し、撮影し 2 号墳も全調査を完了。出土遺物は無し。〔内業〕石室内の土の洗浄 19 日目は、1 号墳敷石間の 52 袋 (合計 660 袋) で、ガラス製の小玉 3 個・丸玉 1 個・鉄鏝 6 片を出土した。本日で洗浄は全て完了した。

・4月1日(火) プレハブ内の機材等の移動。水道・電気・備品の撤去。工事掘削作業が開始される。

・4月2日(水) プレハブ・発電機等の撤去。現地における全作業完了。第 12 回打合会議 (13:30 ～市美術館において終了報告)



写真20 石室解体右側壁



写真21 石室解体奥壁



写真22 基底石測量



写真23 市教育委員会の終了確認

第3章 調査区

第1節 調査区内の地区割設定

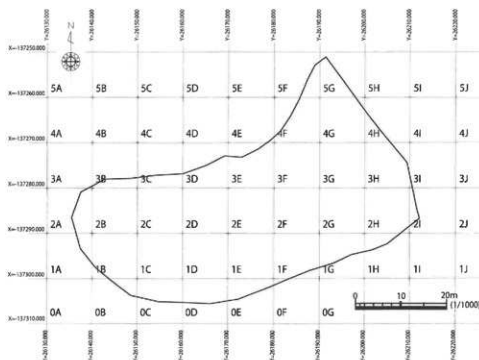
調査地（敷地）全体の地区割グリッドは、世界測地系の整数値による10 m方格とし、任意の南西交点0Aを起点($X = -137310.000$, $Y = 26130.000$)に、北へ10 m毎に0～5の数字を、東へ10 m毎にA～Iのアルファベット大文字を加えた第7図に示す2桁呼称とした。

各古墳の掘削範囲は、このグリッドラインを利用したものとし、稲荷山1号墳調査区が700㎡、稲荷山2号墳調査区が400㎡の合計1,100㎡である。

また、これにより1号墳の主体部は2Dグリッド付近に、2号墳の主体部は3Hグリッド付近に位置する。

第2節 調査区の概要

調査開始前に調査区を中心に現況測量を実施した。この第8図及び第6図によると稲荷山の尾根筋は、標高72.3 mの尾根頂部から緩やかに南方向に下がり、5号墳から消失した3・4号墳にかけて南西に向きを変え、約6°の極めて緩い傾斜地先端の標高71 m付近に2号墳が、緩やかに西に曲がって古墳の存在しない2号墳から1号墳間の28 mの約14°のやや急な傾斜地を挟んだ標高64 m付近の傾斜変換点平場に1号墳が造られ、尾根先端の岩盤露頭1・2付近までの約25 mは約9°の緩やかな傾斜が続き、岩盤露頭1・2から西には急激に約24°の傾斜で落ちていることがわかる。また、調査区の尾根幅は、2号墳付近では10～13 m余りの平場が見られるが、その北西側では約21°、南側では20～22°余りの谷傾斜となり、1号墳のある付近では5～7 m余りの痩せ尾根となりその北側は崖面といってもよいほどの約30°の急斜面に、南側も約19°の斜面となっている。これらから直径10～20 mの墳丘を構築するに

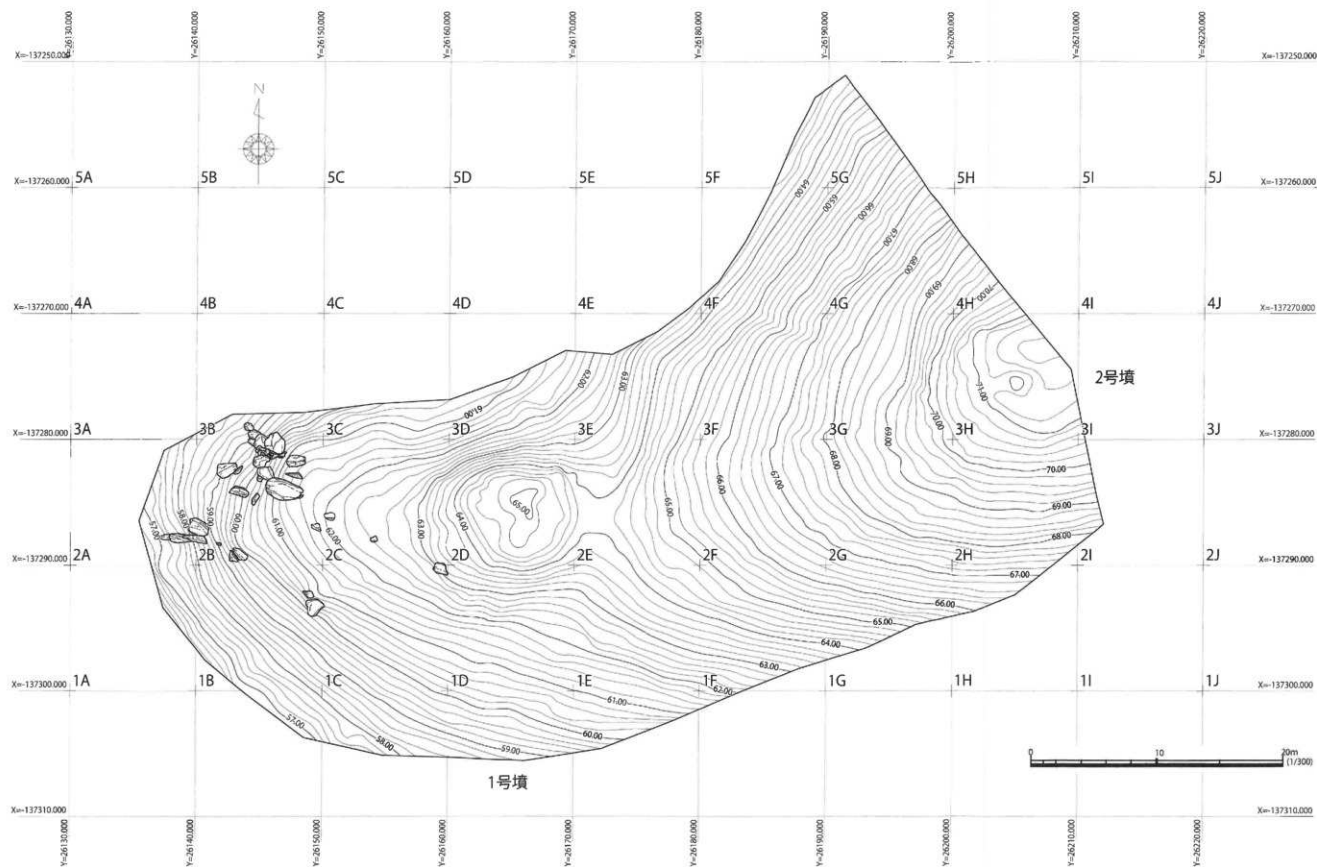


第7図 稲荷山1・2号墳地区割図

は、2号墳については比較的安定した墳丘造りが可能な地形であったと見られるのに対して、1号墳は西側前面の前庭が広い点は古墳群中最大ではあるが、北側の谷傾斜が大きく食い込んだ尾根幅の狭い地形に立地し、条件の良くない位置に存在するといえる。

調査前の墳丘予想は、1号墳では古墳西側の裾が標高63 m付近に、東側の裾が標高64 m付近あること、墳頂部は標高65.2 mまでの高さ2.2 m余りで、石室天井石の残存していることが確認されており、直径は13 m余りの円墳とみられた。2号墳では、墳丘東側が削平されているが古墳西側の裾は標高69 m付近にあること、墳頂部は陥没しているが標高71.3 mで高さ2.3 m余りが残存しているものの石室の残存状況は悪いようで、1号墳よりも大きい直径20 m余りの円墳と予想された。

このような地形であるため墳丘上の表土層の層厚は、地山層であるチャートの岩盤又はチャートの風化層である赤褐色シルト層の地形に大きく左右され不均衡である。1号墳は、墳頂部では数cm、北側の傾斜地では約0.25 m、南側では約0.15 m、西側では約0.1 m、東側では約0.35 mであった。2号墳では、墳頂部では約0.2 m、北西側の傾斜地では約0.1 m、南東側の傾斜地では約0.15 m、西側の傾斜地では約0.25 mであった。



第8図 稲荷山1・2号墳調査前現況平面図

